

年報

2022 年度



東京医療保健大学東が丘看護学部

**TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY**

**Higashigaoka Faculty of Nursing**

東京医療保健大学東が丘・立川看護学部（臨床看護学コース）

**TOKYO HEALTHCARE UNIVERSITY**

**Higashigaoka-Tachikawa Faculty of Nursing**

**(Clinical Nursing Program)**

# 2022年度 年報

## 目次

○巻頭言	1
1. 組織図	2
2. 学内行事の概要	3
3. 入試状況	5
4. 教職員名簿	9
5. 委員会活動	12
6. 教育活動	
6-1 学部	16
6-2 大学院	
▶高度実践看護コース	36
▶高度実践助産コース	42
▶高度実践公衆衛生看護コース	49
▶看護科学コース	55
▶博士課程	55

令和4年度年報に寄せて(巻頭言)

COVID-19 禍 3 年目を迎え、東が丘・立川看護学部(臨床看護学コース)の学生の教育活動はもろに影響を受けて参りました。各種 I T教材を導入し、工夫・活用してきたと共に、実習病院のご協力もありまして卒業生が最後の学年を無事に迎えられ、ほぼ全員所定の教育課程は修了いたしました。世界的なパンデミックにより、看護の重要性が一層高まる中で、私たち東が丘看護学部では日常の教育活動等あまり変更せず、感染防止対策には十分留意し、実習施設の状況を勘案しながら、活動してきた結果・成果です。ご覧になればご理解頂けると思いますが、教育活動はかなり充実しております。

一方、教員達の苦勞はいかばかりか。教育・研究を継続するための様々な取り組みをしています。関係者の皆様のご協力とご支援があつてこそ、私たちはこうした成果を出すことができたのであり、心より感謝申し上げます。この年報は、私たち自身を初め、昨年度の主として教育業績や取り組みを振り返り、今後の展望を共有するための重要な報告書です。皆様のご支援に深く感謝いたします。特に昨年度は、厳しい経済環境や社会の変化にも全員でもって対応できました事心より感謝申し上げます。

私たちの看護大学の年報をご覧いただいた皆様、誠にありがとうございます。この年報は、昨年度の教育・研究・社会貢献の成果や取り組みを振り返り、今後の展望を共有するための重要な報告書です。看護教育のプロフェッショナルとしての使命を全うするために、多くの方々のご支援に深く感謝いたします。

研究業績につきましては詳細な報告を年報紙面で行ってはおりませんが、昨年度は、私たちのメンバーの教授竹内朋子先生、准教授朝澤恭子先生、准教授高橋智子先生の3名は外部学会団体等からの優秀賞を頂いております。研究の推進にも力を入れ、国内外の学会や研究プロジェクトへの参画を通じて、看護学の発展に貢献しました。誇りに思います。

他にも本学部ではさらなる飛躍を遂げるために、様々な取り組みを行いました。教育の質の向上に向けて、カリキュラムの見直しや教育プログラムの検討・充実を図り、学生一人ひとりの成長にマッチした支援をしました。

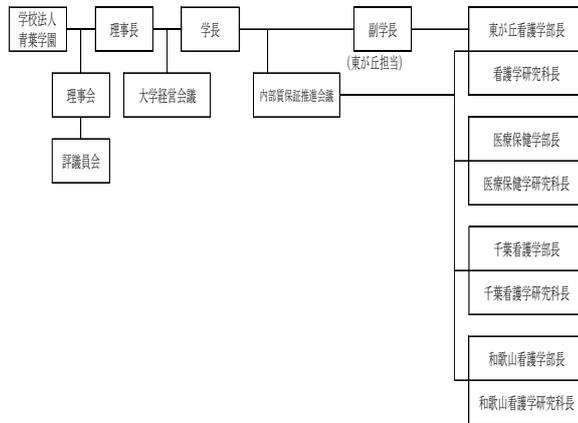
さらに敷地内にある連携病院の看護職員や医療従事者の健康と安全を考慮しながら支援可能な所は支援して参りました。このような状況時はお互い様ですから、協力し合うことがとても素晴らしいと思います。また、地域との連携を強化し、地域のニーズに応える看護・教育サービスの提供や地域貢献活動を学生と共に積極的に展開しました。

今後も益々本学の発展を期待したいと思っております。

令和5年4月27日

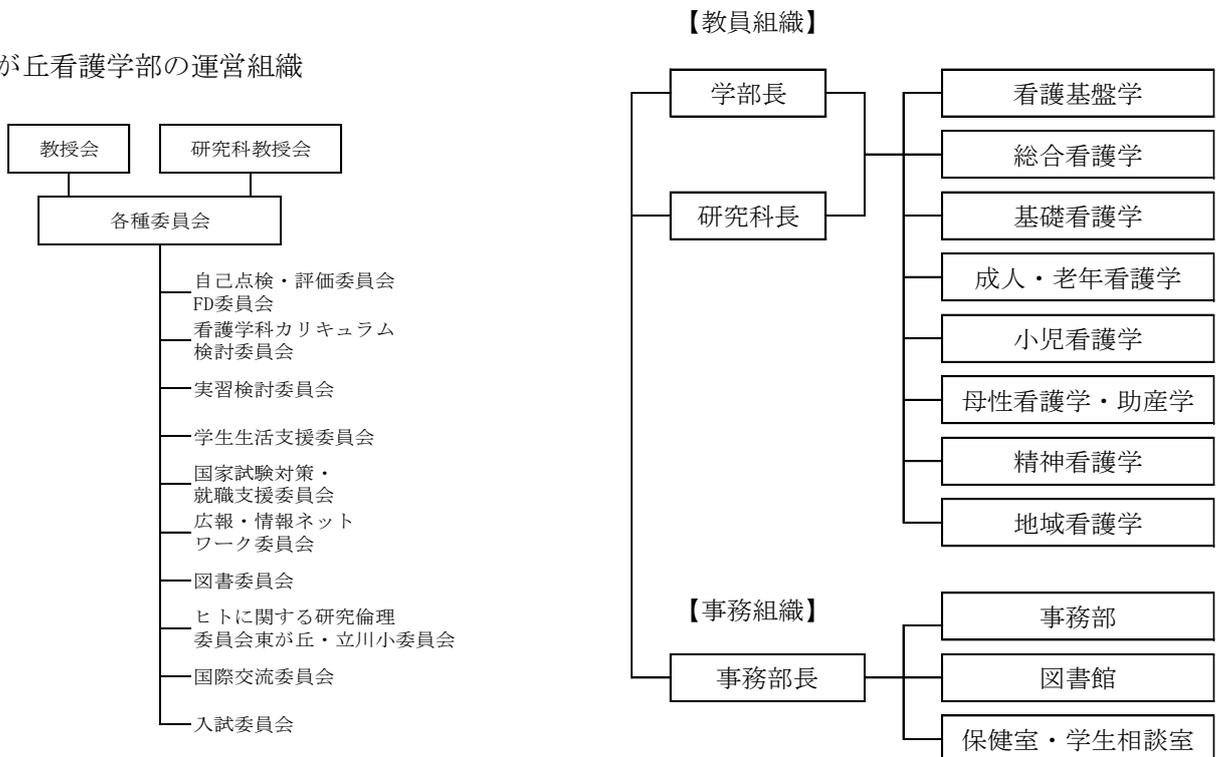
東が丘看護学部長 山西文子

# 1. 組織図



- ※大学経営会議：年 5 回開催
- ※理事会・評議員会：年 3 回同時開催
- ※学部長等会議：年 1 1 回開催

## 東が丘看護学部の運営組織



## 2. 学内行事の概要

### 2-1. 学年暦

【 前 期 】

【 後 期 】

#### 4月

- 1日 学内初エンターション(1~6日)、新入生  
ガイダンス
- 6日 入学式・健康診断
- 7日 前期 Semester 授業開始
- 19日 コンタクトミーティング

#### 5月

- 5日 新入生合宿研修(~5/6)
- 9日 在宅看護学実習(~7/1)

#### 6月

- 3日 WEB オープンキャンパス(~6/28)
- 6日 看護過程展開実習(~6/17)
- 12日 来校型オープンキャンパス
- 17日 スポーツ大会
- 27日 看護学体験実習(~7/1)

#### 7月

- 9日 来学型大学院個別相談会
- 19日 看護学統合実習(~7/29)
- WEB 入試説明会(8/30)
- 24日 オープンキャンパス

#### 8月

- 6日 夏季休業開始(~9/30まで)
- 6日 来学型大学院個別相談会
- 18日 学科見学会

#### 9月

- 7日 WEB 入試説明会(~10/7)
- 15日 FD 研修会
- 18日 入試説明会(総合型・学校推薦型)
- 21日 WEB 入試説明会(~11/5)
- 26日 各論実習(R5.2/10まで)

## 2-2. オープンキャンパス

7月24日(日)オープンキャンパスが実施された。

なお、概要は以下の通りである。

- 1) 学部長挨拶 山西文子
- 2) 学部説明 中島美津子 内山孝子
- 3) 講義・演習の紹介授業風景(卒論) 成人老年・母性・助産各領域。
- 4) サークル・団体ダカーポ ひいりんぐぽっと
- 5) キャンパス見学ツアー 各領域教員

## 2-3. 東が丘看護学部入試説明会

本年度の入試説明会は、8/18(来学)、9/18(来学)に実施した。

また、WEB 動画配信を 6/3～6/28・7/15～8/30・12/2～2/16 の間実施した。

## 2-4. 個別見学会

下記の日程で個別見学会を実施した。

・国立病院機構キャンパス

- 10/21 (金) 16:30～17:30 6名 内容: 学科説明、入試説明、キャンパス見学  
11/21 (月) 16:30～17:30 20名 内容: 学科説明、入試説明、キャンパス見学  
12/12 (月) 16:30～17:30 10名 内容: 学科説明、入試説明、キャンパス見学

2-5. 高校教員対象大学説明会を WEB にて実施した。

2-5. 公開講座等の開催 (FD 企画を含む)

### ① 4.15(金) 新着任教員研修

テーマ: 「本学新カリキュラムについて」「実習について」

「学生生活支援について」「本学の FD について」

講師: 山西 文子(副学長、東が丘看護学部長)他

### ② 4.21(木) 第1回 FD

テーマ: 「本学の方針について」

講師: 亀山 周二 (学長)

テーマ: 「研究指導のあり方」

講師: 大島 久二(研究科長)他

### ③ 5.19 (木) 新着任教員研修

テーマ: 「東が丘看護学部の教育方針、教育者の使命について」

講師: 山西 文子(副学長、東が丘看護学部長)

### ④ 6.16(木) 第2回 FD

テーマ:「東京医療保健大学における各学部における最先端教育の現状と今後の方向性」

講師:瀬戸 僚馬 (医療情報学科教授)

⑤ 9.15(木) 第3回

テーマ:「学生を惹きつける授業論 人前で話すとは～言葉と哲学」

講師:高濱正伸 (花まる学習会代表)

⑥ 11.16(水) 第4回

テーマ:「看護大学における国際交流促進に向けて-国際的視野をもつ医療人の育成」

講師:新福洋子 (副学長、広島大学大学院 医系科学研究国際保健看護学)

⑦ 12.10 (日) 第5回

テーマ:児童・思春期の子どものメンタルヘルス

「子どもと向き合う」ということを共に考える

講師:中村裕美 (東が丘看護学部看護学科講師)

## 2-6. 学友会活動

### 1)スポーツ大会

学友会の全学行事である、スポーツ大会が6月17日(木)に、駒沢オリンピック公園総合運動場体育館で開催された。東が丘・立川看護学部、医療保健学部、千葉看護学部あわせて、学生156名が参加した。

### 2)大学祭 (医愛祭)

3年ぶりとなる大学祭を11月5日(土)・6日(日)に世田谷キャンパスで開催しました。

今年のテーマは「紡」！新型コロナウイルスの影響により開催できず途切れてしまった医愛祭を、また、一から紡いでいこうという思いからこのテーマに決まりました。

東が丘・立川看護学部の学科企画では、来場者に手洗いをしてもらい、手洗いチェッカーを用いて洗い残しの確認を行なった。来場者は1日目に214名、2日目には231名の計445名であった。

## 3. 入試状況

### 3-1. 令和5年度入学者選抜状況 (選抜試験は令和4年度に実施)

#### 概要

東が丘看護学部看護学科、大学院看護学研究科の入学者選抜の概略は以下のとおりである。

#### 3-1-1. 東が丘看護学部看護学科

○東が丘看護学部													
試験区分	試験日	定員 <sup>Ⓐ</sup>		志願者数 <sup>Ⓑ</sup>		受験者数 <sup>Ⓒ</sup>		競争倍率 <sup>Ⓒ/Ⓓ</sup>		合格者数 <sup>Ⓓ</sup>		入学予定者数	
総合型選抜	10月16日(日)	(8)	8	(101)	93	(99)	92	(4.7)	4.6	(21)	20	(21)	20
学校推薦型選抜 (指定校)	11月13日(日)	(15)	15	(24)	26	(24)	26	(1.0)	1.0	(24)	26	(24)	26
学校推薦型選抜 (公募制)	11月13日(日)	(23)	23	(56)	51	(55)	51	(1.7)	2.0	(33)	26	(33)	26
小計		(46)	46	(181)	170	(178)	169	(2.3)	2.3	(78)	72	(78)	72
大学入学共通テスト 利用入試(前期)	1月14日(土) 15日(日)	(7)	7	(177)	106	(177)	106	(3.9)	3.3	(45)	32	(3)	1
一般選抜A日程入試	1月24日(火)	(15)	15	(153)	115	(152)	111	(3.3)	2.6	(46)	43	(17)	17
一般選抜B日程入試	2月4日(土)	(25)	25	(251)	187	(211)	141	(3.2)	2.0	(66)	71	(16)	19
一般選抜C日程入試	2月18日(土)	(7)	7	(109)	56	(87)	40	(5.8)	3.6	(15)	11	(2)	2
大学入学共通テスト 利用入試(後期)	1月14日(土) 15日(日)	若 千 名	若 千 名	(6)	4	(6)	4	(3.0)	4.0	(2)	1	(0)	0
小計		(54)	54	(696)	468	(633)	402	(3.6)	2.5	(174)	158	(38)	39
合計		(100)	100	(877)	638	(811)	571	(3.2)	2.5	(252)	230	(116)	111

○ 推薦入試

1) 学校推薦型選抜(指定校)

(1) 対象

本学を第一志望(専願)とし、下記の入学資格に該当する者

1. 令和5年3月に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。)

を卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

2. 高等学校における全体の評定平均値が3.8以上の者

(2) 選抜方法

調査書・小論文・面接を総合的に評価し選抜

2) 学校推薦型選抜(公募制)

(1) 対象

本学を第一志望(専願)とし、下記の入学資格に該当する者

1. 令和5年3月に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。)

を卒業見込みで、高等学校長の推薦がある者

2. 高等学校における全体の評定平均値が3.5以上の者

(2) 選抜方法

調査書・小論文・面接を総合的に評価し選抜

3) 総合型選抜

(1) 対象

本学を第一志望(専願)とし、下記の入学資格に該当する者

1. 令和5年3月に高等学校(中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ。)を卒業見込みで、3年次1学期または3年次前期までの調査書を提出できる者

(2) 選抜方法

調査書・小論文・面接を総合的に評価し選抜

○ 一般入試

1) 一般入学試験 A・B・C日程

(1) 試験科目

A日程 必須科目 英語(100点) 選択科目 数学I・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から1科目選択(各100点)

B日程 必須科目 英語(100点) 選択科目 国語総合(現代文のみ) 数学I・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から2科目選択(各100点)

C日程 必須科目 英語(100点) 選択科目 国語総合(現代文のみ) 数学I・数学A、生物基礎・生物、化学基礎・化学、生物基礎・化学基礎から2科目選択(各100点)

2) 大学入学共通テスト利用入学試験 前期・後期

(1) 試験科目

必須科目 英語【リスニングを含む】(200点)

選択科目 国語【近代以降の文章】、数学I・数学A、生物、化学、生物基礎・化学基礎から2科目利用(3科目以上受験している場合は高得点の2科目を採用(各100点)

ただし、理科を2科目以上選択している場合は、「生物」「化学」の組合せのみ採用となります。

3-1-2. 大学院看護学研究科

・前期9月3日(土)及び後期12月17日(土)に実施しました看護学研究科の入学試験結果は、次のとおりです。

修士課程 コース(定員)	出願者数	受験者数	合格者数	備考
高度実践看護コース (20名程度)	56名	56名	28名	4名辞退
高度実践助産コース (10名程度)	25名	23名	7名	内訳 助産師免許取得プログラム 7名(1名辞退) 助産師(有資格者)プログラム 0名
高度実践公衆衛生看護コース (若干名)	9名	9名	2名	
看護科学コース (若干名)	3名	3名	3名	
合計	90名	88名	36名	入学者数35名
博士課程(2名)	0名	0名	0名	
看護学研究科 合計	90名	88名	37名	入学者数35名

※いずれの値も前期及び後期の合算値になります。

○ 選抜方法

[修士課程]

筆記試験、面接及び出願書類を総合して行います。

[高度実践看護コース]

(1) 筆記試験

看護学に関する総合的な基礎知識を問います。(120分)

必修問題 3問

(2) 面接試験 1人 15分程度

[高度実践助産コース]

① 助産師免許取得コース

(1) 筆記試験

看護学の基礎知識と母性看護学の知識を問います。(120分)

必修問題 3 問

(2)面接試験 1 人 15 分程度

②助産師プログラムコース

(1)筆記試験

助産学に関する知識と論理的思考力（小論文）を問います。（120 分）

必修問題 3 問（うち 1 問は小論文）

(2)面接試験 1 人 15 分程度

〔高度実践公衆衛生看護コース〕

(1)筆記試験

看護学に関する総合的な基礎知識を問います。（120 分）

必修問題 3 問（うち 1 問は小論文）

(2)面接試験 1 人 15 分程度

〔看護科学コース〕

(1)筆記試験

保健・医療分野に関する知識と論理的思考力を問います。

また、一部の問題は、英語の能力を問います。（120 分）

〔辞書（電子辞書は除く）1冊を持ち込むことができます。〕

(2)面接試験 1 人 15 分程度

#### 4. 教職員名簿(2022.4.1 現在)

専任教員	担当領域	氏名	職名	採用等年次
	大学院看護学研究科長	大島 久二	副学長/教授	2. 4. 1 採用
	東が丘・立川看護学部長			
	及び東が丘看護学部長	山西 文子	副学長/教授	25. 4. 1 採用
	看護基盤学	明石 眞言	教授	2. 8. 1 採用
		小野 孝二	教授	25. 4. 1 採用
		小宇田 智子	准教授	22. 4. 1 採用
		岸 達也	助教	4. 4. 1 採用
	総合看護学	山西 文子	教授	25. 4. 1 採用
		浦中 桂一	准教授	29. 4. 1 採用
		忠 雅之	講師	3. 4. 1 採用
	基礎看護学	松山 友子	教授	22. 4. 1 採用
		内山 孝子	准教授	2. 4. 1 採用
		高橋 智子	准教授	25. 4. 1 採用
		ハーネド 明香	助教	2. 4. 1 採用
		久保田 貴博	助教	4. 4. 1 採用

成人・老年看護学	森田 有紀	助手	3. 4. 1	採用
	竹内 朋子	教授	25. 4. 1	採用
	松本 和史	准教授	27. 4. 1	採用
	新山 真奈美	准教授	4. 4. 1	採用
	原口 昌宏	講師	29. 4. 1	採用
	高田 由紀子	講師	4. 4. 1	採用
	井本 由希子	助教	31. 4. 1	採用
	丹後 キヌ子	助教	4. 4. 1	採用
小児看護学	佐藤 琴美	助手	2. 9. 1	採用
	中島 美津子	教授	28. 4. 1	採用
母性看護学・助産学	玄 順烈	准教授	26. 4. 1	採用
	島田 三恵子	教授	3. 11. 1	採用
	朝澤 恭子	准教授	26. 4. 1	採用
	加藤 知子	講師	26. 4. 1	採用
	小嶋 奈都子	講師	22. 4. 1	採用
	デッケルト博子	助教	2. 4. 1	採用
	鬼澤 宏美	助教	2. 4. 1	採用
	浅井 百合絵	助教	4. 4. 1	採用
精神看護学	田中 留伊	教授	22. 4. 1	採用
	中村 裕美	講師	22. 4. 1	採用
	菅原 裕美	助教	31. 4. 1	採用
地域看護学	明石 眞言	教授	4. 4. 1	採用
	金子 あけみ	准教授	22. 4. 1	採用
	佐藤 潤	准教授	22. 4. 1	採用
	駒田 真由子	講師	29. 4. 1	採用
	赤石 春佳	助教	4. 4. 1	採用

事務職員	役職	氏名
	部長	中田 太一
	主任	齋藤 容子
	主任(大学院担当)	鎌田 りみ
	主任(大学院担当)	菊池 広訓
	職員	岡田 友理
	職員	小宮 咲紀
	職員	佐藤 光伸
	職員	津野 朋子

図書館司書	町田 玲彦
図書館司書	加藤 亜樹
図書館司書	遠藤 一恵
図書館司書	栗原 真理
学生相談	原田 直美
保健室	戸谷 益子

## 5. 委員会活動

### 自己点検・評価委員会

#### 構成員

中島美津子（委員長）、朝澤恭子（副委員長）、浦中桂一、新山真奈美、加藤知子、岸達也、平間善之（事務部）、内田智明（事務部）、

#### 活動内容

令和4年度自己点検・評価報告書の作成を行った。

また、令和3年度の年報として東が丘看護学部における委員会活動、教育活動、業績等に関して取りまとめ、本学ウェブサイトにアップロードを行った。

### FD委員会

#### 構成員

中島美津子（委員長）、朝澤恭子（副委員長）、浦中桂一、新山真奈美、加藤知子、岸達也、平間善之（事務部）、内田智明（事務部）、

#### 活動内容

- 1) FD研修の企画（6回/年）の運営。グロプロ企画（国際交流委員会共催）のリレー講演会「世界の医療を知ってみよう」への参加推奨等を行った。アンケートより次年度以降の研修希望等の検討も実施。
- 2) FDマップの活用とその評価  
FDマップのフェーズと目標の位置づけを示し、教職員に活用を推進しているがその評価表を作成し、使用に関するアンケートを実施。評価表活用や今後の研修運営への示唆を得た。

### 東が丘看護学部カリキュラム検討委員会

#### 構成員

松山友子（委員長）、竹内朋子（副委員長）、山西文子（学部長）、明石眞言、小野孝二、島田三恵子、田中留伊、中島美津子、中田太一（事務部長；8月まで）、平間善之（事務部長；9月～）、齋藤容子（事務員）

#### 活動内容

年間計画に沿って活動した。新カリキュラムがスタートしたが、事務部と連携を取り変更科目等も問題なく進行している。留年生には個別に新旧カリキュラム対比表を作成した。授業運営については、学生の学びや交流を考慮し対面授業の配置を検討した。また、成績評価の方法や学生への周知方法等を全領域で検討し、申し合わせ事項を作成した。次年度も、新カリキュラムの円滑な運営と教育の質の担保に向けた活動を行う予定である。

## 実習検討委員会

### 構成員

竹内朋子（委員長）、内山孝子（副委員長）、朝澤恭子、浦中桂一、金子あけみ、玄順烈、高田由紀子、中村裕美、岸達也、岡田友理（事務部）

### 活動内容

本委員会は、東が丘看護学部の看護学実習教育の質向上を目指し、看護学実習年間計画の立案、臨地実習要項の作成、看護技術経験表の作成と集計、インシデント報告の集計と分析、実習施設対象の看護学実習説明会の開催、独立行政法人国立病院機構 東京医療センター看護部との看護学実習連携会議の共催等を実施した。昨年度に引き続き、COVID-19 拡大下における実習運営に関して、委員会での情報共有や実習施設との調整も行なった。

## 学生生活支援委員会

### 構成員

田中留伊(委員長)、玄順烈(副委員長)、小宇田智子、高橋智子、小嶋奈都子、駒田真由子、高田由紀子、忠雅之、原口昌宏、鬼澤宏美、菅原裕美、戸谷益子、中田太一、岡田友里、平間義之、内田智明

### 活動内容

学生の相談(学習や進路に関すること等)や学業継続(休学・退学等)・健康状態の把握に関する事項について対応した。主な活動として、1年次生の合宿研修は5月に国立オリンピック記念青少年総合センターで実施された。コンタクトグループミーティングは前期・後期ともにZOOMで開催した。スポーツ大会は6月に駒沢公園屋内競技場にて実施された。大学祭(医愛祭)は11月に世田谷キャンパスにて実施された。定例となっている東京医療センターと協同イベントは七夕飾りつけのみ実施された。ボランティア活動の一環として、10月9日(日)に開催された「第46回目黒区民まつり」に学生ボランティアを10名派遣した。

## 国試・就職対策支援委員会

### 構成員

松本和史(委員長)、島田三恵子(副委員長)、玄順烈、小宇田智子、高橋智子、小嶋奈都子、忠雅之、中村裕美、井本由希子、ハーネド明香、赤石春佳、平間善之、齋藤容子

### 活動内容

国試対策として、全学年に国試ガイダンス、業者模擬試験(4年生8回、1-3年生1-2回)を実施した。4年生に対し、後期に業者講習(2回)と教員による講習(19回)を開催した他、ゼミ単位で個別の学生への支援を行った。就職支援活動として、就職ガイダンス、外部講師を招いた就職支援講座(面接対策講座、履歴書講座、小論文対策講座等)、卒

業生との懇談会を実施した。今年度初めて東京医療センター就職説明会を実施した。

## 図書委員会

### 構成員

朝澤恭子（委員長）、高橋智子（副委員長）、駒田真由子、高田由紀子、丹後キヌ子、佐藤琴美、町田玲彦（図書館）、加藤亜樹（図書館）、内田智明（事務部）

### 活動内容

学外から利用できる電子ジャーナル・書籍等のサービスの継続・拡大を継続した。定期および臨時の新規書籍購入のリクエスト、購入を取りまとめ、教育に活かせるよう努めた。目黒区との地域連携において、緩和ケアの選書、コラボ展示、共同リスト作成を行った。東が丘図書館の利用実績および各種データベースへのアクセス状況を取りまとめた。

## 広報・情報ネットワーク委員会

### 構成員

小野孝二（委員長）、松本和史（副委員長）、内山孝子、赤石春佳、浅井百合絵、久保田貴博、デッケルト博子、鎌田りみ(事務)

### 活動内容

#### 1) 大学学部案内

令和4年度の本学の首都圏版パンフレットの作成に携わった。

#### 2) 広報イベント

- (1) オープンキャンパス（来学開催）
- (2) オープンキャンパス（Web開催）
- (3) 入試説明会（来学開催）
- (4) 一般選抜科目対策講座（Web開催）
- (5) 学科見学会（来学開催）

#### 3) その他

- (1) 学報「こころ」を2回発行し、教育活動や学生支援のPR活動を行った。
- (2) 出張講義

東京都立桜町高等学校、東京都立松原高等学校、東京都立忍岡高等学校  
東京都立深川高等学校、東京都立正則高等学校、駒沢大学高等学校

## ヒトに関する研究倫理東が丘・立川小委員会

### 構成員

大島久二（委員長）、小宇田智子（副委員長）、小野孝二、久保恭子、竹内朋子、今井克治（外部委員）、長谷川一恵（外部委員）

### 活動内容

東が丘と立川キャンパスにおける卒業研究、課題研究、特別研究、教員研究のうち、ヒトを対象とする研究課題につき、計 71 題の審査を行った。また、書類内容の統一と精緻化を行い周知した。

## 入試委員会

### 構成員

非公開

### 活動内容

東が丘看護学部、大学院看護学研究科の入学試験に係る事項について協議・審議し、試験の円滑な実施を図った。令和 5 年度 4 月新たに開講予定の大学院看護学研究科「看護管理者」プログラムの募集、入学試験を行った。

## 国際交流委員会

### 構成員

朝澤恭子（委員長）、金子あけみ（副委員長）、原口昌宏、井本由希子、久保田貴博、菅原裕美

### 活動内容

ハワイ大学研修、オーストラリアグリフィス大学研修の現地参加は催行できず、9月にオーストラリア：グリフィス大学オンライン研修、3月にハワイ：シャミナード大学オンライン研修が開催された。研修内容の検討、日程調整、参加の PR、申請手続き、事前研修支援等を実施した。

## 看護学研究科カリキュラム委員会・学生支援委員会

### 構成員

大島久二（委員長）、山西文子（副委員長）、田中瑠伊、明石真言、島田美恵子、竹内朋子（2月より）、浦中桂一、平間(事務部長)、鎌田事務員

### 活動内容

看護学研究科修士課程と博士課程に関する教育計画、実施、評価等に係る質向上のための検討を行った。各コースのカリキュラムや教育・研究に関する取り組みとその評価、単位取得状況等を確認し、研究科教授会への報告及び学籍異動に係る審議等の案件の決定を行った。

高度実践看護コース・高度実践助産コース・高度実践公衆衛生看護コースでは各々 21 名、6 名、4 名が修了認定された。博士課程では 2 名が修了認定された。

## 6. 教育活動報告

### 6-1. 東が丘看護学部

#### 【看護基盤学領域】

##### 1. 教育方針

広い視野に立った物の見方を学ぶために人間の生命を自然科学的、倫理的、あるいは社会学的等、多面的な側面より論じることのできる能力を有する看護師の育成を目指す。

##### 2. 科目名

###### 1) 自然科学の基礎 1年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、小野孝二、岸達也

###### (2) 教育内容

専門基礎分野、専門分野における高度な専門科目を履修するために必須である生物、化学、物理、数学等に関する基礎的な知識を学習することを目的とした。学生によって内容の理解度に差があるため、基礎的な内容について、理解しやすいようにイラスト等を利用して資料を作成した。次年度も授業で使用するスライドはよりわかりやすいものとなるよう工夫し、高度な専門科目に対応できるような知識の習得を目指す。

###### 2) 臨床検査学演習 2年次前期

(1) 担当教員 小野孝二、明石眞言、小宇田智子、岸達也

###### (2) 教育内容

診断・治療の基礎として活用されている臨床検査の原理を理解し、その意義を学ぶことを目的として演習および ICT 講義を実施した。病理検査演習、臨床化学演習、生理機能検査演習、放射線防護演習の各項目につき、試料の観察や測定等を通して、その基本原理、解剖生理と病態に関する理解を深めた。次年度は、病院内で実施されている各臨床検査演習について、臨床現場での演習により関連付けるような工夫を凝らしたい。

###### 3) 臨床薬理学演習 2年次後期

(1) 担当教員 小宇田智子、矢田部恵

###### (2) 教育内容

薬理学の知識をもとに治療対象となる患者の状況（年齢、性別、生理的状态など）による薬物動態の知識、作用と薬効について理解させることを目標とした。臨床現場で使用されている薬物の使用目的、作用機序、有害作用・禁忌などに関して看護師が知っておくべき事柄を、随時、解剖生理学や疾病の成立ちの知識を確認しながら概説した。次年度は、臨床的な投与時の看護のポイントについても取扱い、より臨床に近い形での教育を目指す。

#### 4) 公衆衛生学 2年次後期

(1) 担当教員 明石眞言、金子あけみ

##### (2) 教育内容

公衆衛生学は、個人ではなく人間の集団を扱う領域であり、統計学的な内容が多いため、日常社会に結び付くように心がけて講義を行った。疫学や厚生労働省・内閣府から出される統計等公衆衛生学的な手法・内容から見えてくることは多く、新型コロナ対応は、まさに公衆衛生学そのものである。次年度は、学生が現実の社会で起きていることを、公衆衛生学の視点で見ることができるような講義を目指したい。

#### 5) 生化学 1年次生後期

(1) 担当教員 小宇田智子

##### (2) 教育内容

生命は生体物質の化学変化や相互作用によって維持されていることを理解し、生体の構成成分である炭水化物、タンパク質、脂質の構造と性質について講義を行った。また、それらが健康維持や疾病発生にどのようにかかわっているかについて具体的な内容に触れた。次年度は、酵素反応についてより具体的に扱うことで、薬理作用や疾病の成り立ちについての理解が深まるような講義を目指す。

#### 6) 看護研究の基礎 3年次前期

(1) 担当教員 小野孝二、竹内朋子、朝澤恭子、小宇田智子

##### (2) 教育内容

エビデンスに基づく看護に資する看護研究を実施する素地を形成することを目標に講義を実施した。看護学における研究の意義、研究を開始するための基礎となる情報収集から、研究手法の分類と進め方、倫理的配慮、研究のまとめ方にいたるまでの一連のプロセスについて概要を講義した。次年度も、より具体的な研究(例えば卒業研究)を題材として取り上げるなど、より具体的な事例に即した講義を目指す。

#### 7) 英語論文のクリティーク 3年次後期

(1) 担当教員 明石眞言 各領域担当教員

##### (2) 教育内容

英語原著論文の検索法を示し、各領域に関連し、学生が興味のある英語原著論文をした。論文の内容は、各領域における卒業研究に関連のあるものとした。指定された英語論文を精読し、卒業研究グループの中で発表と討論を行った。来年度は、各自の研究内容と関わりを明確化し、論文から得られた内容を研究に結び付ける工夫をしたい。自動翻訳機ではなく、辞書を引きながら論文を読む習慣が求められる

## 8) 解剖生理学 I, II 一年次前期

(1) 担当教員 明石眞言、小宇田智子、大島久二、非常勤講師

### (2) 教育内容

人体の構造とその機能を学ぶ科目であり、最も基礎となる科目である。計 30 回にわたり、看護師用の教科書以上の内容を、全身の器官・臓器別に講義を行った。復習が不可欠であり、内容が多いため、学生の負担は大きい、それを乗り越えることを求めた。次年度は、より学生の能力に即した内容を教授できるように工夫する。

## 9) 実用医療英語 3 年次生前期

(1) 担当教員 明石眞言

### (2) 教育内容

実際の現場の医療で使う英語を例により、患者とのやり取りや医療英語を独力で読めるようになることを目標とした。現場の言葉を使用したテキストを採用したが、英語の基礎が求められた。次年度は、より学生の能力に即した内容を教授できるように工夫する。

## 【総合看護学領域】

### 1. 教育方針

アクティブラーニングの導入科目を積極的に増やし、本学のアクションプランの目標 100%達成に向かって領域担当の科目は努力する。学生には自ら考える、考えさせる対応を工夫し、時々共有する。また、出来るだけ現実に近い形で知識の統合、判断の根拠、思考のプロセスを繰り返し、技術の実施、評価という P D C A サイクルを廻せるように支援する。また、チームの一員としてのセルフマネジメントの重要性も再確認する機会であり、臨地実習最後の纏めである。臨床への第一歩がスムーズに踏み出せるように 4 年間の纏めでもあり、社会への橋渡しの位置づけである。学生には、実習病院の一つの病棟の全ての媒体を用い、必要な情報を主体的に収集し、計画し、実践し、評価していくプロセスを体験し、その重要性・大切さを認識させたい。

### 2. 科目名

1) 看護政策論 (選択科目) 4 年次前期

(1) 担当教員 山西文子

### (2) 教育内容

今年度は看護行政等に関心の高い学生が選択し約 87 名であり積極的であった。職能団体の会長からの具体的政策立案、実施、評価。一人の国会議員による基礎的な知識と実際の政策決定過程に携わった実践、議員立法の講義を拝聴した。更に後半は現在の社会問題となっている看護問題についてデベート形式で意見を出し合い積極的な参加であった。

## 2) 統計学 2 年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、岸達也

### (2) 教育内容

統計学の基本的な性質や考え方を理解し、データ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。質的データや量的データをどのように取り扱うのか、科目開始時に履修生対象のアンケートを行い、演習データを作成した。身近な事象に関するデータにて興味を引き、アクティブラーニング手法を用いて統計ソフトや表計算ソフトの実践演習を行った。今後は統計ソフトの事前準備を促し、事後学修の徹底を図っていく必要がある。

## 3) 災害看護学 2 年次前期

(1) 担当教員 金子あけみ、非常勤講師（太田慧）

### (2) 教育内容

災害時の医療・看護活動の基盤となる法的根拠や災害対策及び災害各期の救護活動や看護ケアについて説明した。多くの大学では4年次に教授する内容であるため、DVD等の視聴覚教材を用いてイメージできるように工夫した。また例年通り、東京医療センターの災害訓練に参画し、学生が傷病者や家族の思いを疑似体験できるように工夫した。次年度もこうしたアクティブラーニングを継続し、さらに深められるよう工夫する。

## 4) 政策医療論 2 年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ、非常勤講師（前田光哉）

### (2) 教育内容

我が国の医療政策並びに国立病院機構が行う政策医療と今後の医療提供体制、地域包括ケアシステムについて解説した。また、看護の専門職化の歴史、看護の質の向上に向けた取り組みについて説明するとともに、医療従事者法としての保健師助産師看護師法の課題や関連団体の政策・事業についても説明した。次年度も医療政策について批判的に思考できるよう教授していく。

## 5) NP 論（選択科目） 4 年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一 山西文子

### (2) 教育内容

4 年次生全員学生が選択し、授業にも積極的に参加した。前半はわが国における NP 教育の実態及び世界各国における NP 教育・役割・活動の実際についての概要を講義し、その後は我が国において大学院 NP コースを修了し現場で活躍している NP の講師に活動の実際を講義頂き、質疑応答の時間を設けた。今後は講師を適宜変えてプライマリ領域も含め多種多様な NP 活動の実際について触れてもらい、学生のキャリア開発に対する動機づけの機会とする。

## 6) 看護職とキャリア形成 4 年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ

(2) 教育内容

看護専門職として成長するプロセスとキャリア形成に関する知識を深めることを目的に Life Career と Work Career の両面から概説した。主なキーワードとして、生涯発達、キャリア発達、リフレクション、プロフェッショナルリズムをとりあげ理解を深められるよう教材を工夫した。コロナ禍のためグループ討議・発表会は出来なかったが、次年度はグループ討議等を実施し学生同士の意見交換の場をもつ予定である。

## 7) 看護学統合実習 4 年次前期

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之

(2) 教育内容

本実習は、4 年次までの全ての看護学実習の内容や看護マネジメントの学習を統合した実習として位置付けている。実習は学内実習と臨地実習からなり、学内実習では 4 月～7 月にレポート作成・プレゼンテーション、看護技術演習を計画実施し、臨地実習は 6 施設で 7 月～8 月に実施した。来年度は 9 日間の臨地実習期間となる。実習施設が 1 施設増えるため、学生の実習目標達成に向け、実習前の臨床側との十分な調整が課題である。

## 8) 卒業研究 4 年次通年

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一

(2) 教育内容

10 名程度のグループごとに、研究テーマを設定し、研究計画の立案から成果発表までの一連のプロセスを学修する。2021 年 11 月 2 日に体育館において「卒業研究発表会」を開催し、3 年生も含め全教員参加の下、学会形式で発表が行われた。学生同士の質疑応答も活発に行われていた。発表内容を一部サテライトで中継したが回線の不具合で共有できなかった。今後は PC 環境を改善して円滑な会の運営を行う。各グループのテーマと構成メンバーは以下の通り。

### 看護基盤学領域

妊娠中の母体への X 線検査による子どもの白血病リスクに関する文献レビュー

石田 愛美、遠藤 莉野、岡庭 茉耶、岡野 夏奈、小向 ほの香、

柴田 絵厘子、武田 みちる、深見 明日香

オリゴノールおよび MCT オイルの経口摂取による腸内細菌叢の変化

木村 友皇、東 亜実、海野 英史子、金子 美波、菅野 栞、高木 みなみ、

野村 彩夏、松井 藍子

#### 総合看護学領域

運動中の呼気意識が運動後の呼吸状態および下肢疲労感に与える影響

埜 慧、青木 真紘、桑原 雪音、清水 美玖、鈴木 凜々花、西舘 莉央、  
溝田 真夕、宮本 雅歌、村山 莉穂、本嶋 健人、柳澤 夏穂莉

#### 基礎看護学領域

ミトン拘束がミトン内環境および手部の快適性に及ぼす影響～ミトン内温湿度・手  
部の汚れ・主観的評価から～

岩崎 歩音、北川 佳歩、木下 佳穂、清水 茉尋、中村 日向子、西尾 杏美、  
村中 舞華、山岸 未来

指先に焦点を当てた聴覚・視覚情報提供による一般市民の擦式手指消毒範囲への影  
響

木根渕 夏子、荒澤 侑奈、加々尾 里咲、小岩井 未桜、古賀 愛梨、  
佐々木 愛結実、笹本 彩夏、吉田 芽生

#### 成人・老年看護学領域

COVID-19 パンデミック後における終末期患者のその人らしい最期の迎え方と看  
取りケア

飯出 希美、石川 大幹、中村 紗和、野口 春菜、長谷川 響、原田 郁美、  
三國 真彩、渡邊 紗季

看護師養成課程における基礎看護学領域でのノーリフティングケア教育に関する実  
態調査

木村 文香、浅沼 るい、浅野 茜、窪田 珠子、小島 亜美、佐藤 日向、  
豊田 桃加、美谷島 隆也

#### 小児看護学領域

保育所で働く看護師の業務内容の可視

尾上 梨歩、柳生 海美、竹澤 美咲、萩原 明日香、山川 優子

#### 母性看護学領域

看護系女子大学生における尿失禁の実態とその関連要因

一丸 碧、小林 愛結、志波 航平、鈴木 愛梨、武田 玲菜、谷 梨乃、  
水野 未麗、柳田 未来

COVID-19 の影響下で乳幼児を育児する親における育児ストレスの関連要因

小池 琴音、小森 美玖、荒井 春華、岡安 優奈、笠木 珠里、草沢 彩乃、  
里村 麻理菜、平田 菜摘

#### 精神看護学領域

我が国における統合失調症の子どもを持つ親の葛藤に関する概念分析

藤原 百花、沖永 芽依、小野寺 悠、佐藤 初音、庄子 遥、竹之内 颯太、

廣田 遥、三野田 千紘、柳橋 彩夏、吉岡 ゆりか

### 地域看護学領域

A 大学学生の首都直下地震を想定した帰宅困難のシナリオに基づく対処行動と備え

柏木 理桜、門山 華子、河野 亜志美、佐藤 春菜、関口 優花、武田 陽樹、  
田母神 涼、中野 真佑

大学生の朝食欠食と生活行動および経済状況との関連

近藤 健太、大沢 舞美、小島 里菜、児玉 有里紗、齋藤 彩夏、  
佐久間 夏菜、山本 怜奈、小山 未緒

### 【基礎看護学領域】

#### 1. 教育方針

看護学の学習の基礎として「何故そうするのか」「何が最善か」を自問自答する力の育成をめざす。また、学生が看護の奥深さや楽しさに触れると同時に、専門的な学習への動機づけとなるような授業展開を探究する。

#### 2. 科目名

##### 1) 看護学概論 1年次前期

(1) 担当教員 松山友子、ハーネド明香

##### (2) 教育内容

看護および看護に含まれる基本概念（人間・環境・健康）について理解するとともに、学生自身が今後の看護学の学習に向けた自己の課題を明確にすることを目的に授業を展開した。毎回、事前課題を発表する場を設けた他、看護の記録映像を題材に、看護の活動や役割をグループで検討・発表した。学生からは他者の意見から学びが広がったとの意見が聞かれた。次年度も意見交換の場を設け、自らの意見を述べることを課題としたい。

##### 2) 看護実践技術論Ⅰ（日常生活における援助技術と判断） 1年次前期

(1) 担当教員 松山友子、内山孝子、高橋智子、ハーネド明香、久保田貴博、森田有紀

##### (2) 教育内容

看護技術の基本的な成り立ち及び人間の生活の特徴に関する理解に基づき、看護場面に共通する技術（感染予防、ボディメカニクス）や人間の生活過程を整えるために必要な看護技術（療養環境・活動・休息・安全・安楽・衣生活・排泄・食事を整える技術）について、体験学習を踏まえた講義やグループワーク、演習を実施した。次年度も、演習内容・方法の評価をもとに、ICTの有効活用も含めた方法を継続して検討したい。

##### 3) 看護実践技術論Ⅱ（治療、処置における援助技術と判断） 1年次後期

(1) 担当教員 内山孝子、松山友子、高橋智子、ハーネド明香、久保田貴博、森田有紀

## (2) 教育内容

無菌操作、膀胱留置カテーテル、注射、採血の技術を取上げ、技術の中核となる「安全」確保の原理原則を遵守する重要性を教授した。授業開始時に小テストを実施し事前学習の成果の確認を行えるよう工夫した。演習では、侵襲的な看護技術を安全に実施するための解剖学的な根拠や安全な看護技術の提供を支える看護師の倫理性を強調した。次年度は、演習内容・方法の評価・精選を行い、ICTの有効活用も含めた方法を検討したい。

## 4) 看護実践技術論Ⅲ（看護技術の統合） 1年次後期

(1) 担当教員 高橋智子、内山孝子、ハーネド明香、久保田貴博、森田有紀

### (2) 教育内容

清潔の援助技術を例に教育用カルテを活用しながら、対象の個別性に合わせた援助の必要性和方法の判断を行い、グループ・個人で計画立案した援助の実施、評価を行った。援助計画の実施、評価はLMS教材のルーブリック評価を用いることにより、学生の主体性を向上させることに努めた。来年度も、ICTを活用した指導方法を工夫し、学生が対象の個別性に合った援助を検討・実施できるようにしたい。

## 5) ヘルスアセスメント 1年次前期

(1) 担当教員 内山孝子、松山友子、高橋智子、ハーネド明香、久保田貴博、森田有紀

### (2) 教育内容

人間の健康問題を包括的に理解するために必要な技術（観察、コミュニケーション、バイタルサイン）について講義・演習を実施した。事前学習の成果の確認を目的に小テストを実施し、脈拍・血圧測定は技術試験を実施した。また対象を系統的に理解するため基本的ニード理論に基づくアセスメントガイドを作成し意見交換の場を設けた。来年度は、原則を遵守したバイタルサイン測定およびSBARを活用した報告の習得を課題とする。

## 6) 看護過程と看護方法論 1年次後期

(1) 担当教員 松山友子、内山孝子、高橋智子、ハーネド明香、久保田貴博、森田有紀

### (2) 教育内容

看護過程の5段階をさらに11のステップに分け、ステップごとに事前課題（ワークシート・事例検討）→授業（グループでの意見交換・事例の参考例の提示と疑問点への解説）→事後課題（事例検討の修正：グループまたは個人）という流れで授業を展開した。反転授業を取り入れた方法により、学生は授業での理解が深められたと述べていた。次年度も個人での学びに加えグループでの学びの共有の強化を継続課題とする。

## 7) 看護理論 2年次後期

(1) 担当教員 内山孝子、高橋智子、ハーネド明香

## (2) 教育内容

看護実践の基盤となる代表的な看護理論家の背景、理論の概要、特徴について、講義およびグループワーク討議と討議内容の発表会を実施した。学生は、授業毎の事前・事後学習課題を実施することにより、学習内容に対する理解を深め、看護理論を実践に活用する意義について自らの考えを述べることができていた。来年度は、グループ討議ならびにまとめの講義方法を工夫することにより、事前課題の充実および内容理解に努めたい。

## 8) 看護教育学 4年次後期

### (1) 担当教員 松山友子

#### (2) 教育内容

大学における看護学教育に関わる制度やカリキュラムに関する学習を進めた。本学のカリキュラムと授業設計を確認すると共に、「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」を参考に自らの4年間の学びを評価した。学生は大学で看護・看護学を学ぶ意義を見直し今後の課題を述べていた。また、授業テーマに沿ったレポートの記載が学びの整理になったと述べており、次年度も文字数や提出期限を検討の上継続したい。

## 9) 看護学体験実習 1年次前期

### (1) 担当教員 高橋智子、松山友子、内山孝子、大越扶貴、浅井百合絵、井本由希子、岸達也、久保田貴博、丹後キヌ子、デッケルト博子、ハーネド明香、永井史織、森田有紀

#### (2) 教育内容

地域包括支援センターを含めた3施設の実習協力を得て、医療施設の環境および看護活動の実際について見学や指導者からの説明を受け、体験的に学習した。学生は、最終日の成果発表を通して、看護・人間・健康・環境に関する学内の学びを具体化させることや看護師の役割への理解を深めることができていた。来年度も実習施設と連携し、学生が健康問題を持ちながら地域で生活する人々にも関心を向けられるような実習を検討したい。

## 10) 日常生活援助展開実習 1年次後期

### (1) 担当教員 高橋智子、松山友子、内山孝子、赤石春佳、井本由希子、鬼澤宏美、岸達也、久保田貴博、丹後キヌ子、デッケルト博子、ハーネド明香、佐藤琴美、篠原聡志、永井史織、森田有紀、但井良美、吉田貴恵子

#### (2) 教育内容

2施設に実習協力を得て、学生は患者1名を受持ち、患者の個別性に応じた援助の実践を目指してバイタルサインの観察や療養環境の整備、清潔ケア等の計画を立案・実施し、実際に行った援助について評価した。学生は患者を受持ち、日々患者とかわるることによ

り、学内で学んだ内容を具体化させ、個別性に応じた援助の必要性について理解を深めることができていた。来年度も実習施設と連携し、学生への指導体制を検討したい。

#### 11) 看護過程展開実習 2年次前期

- (1) 担当教員 松山友子、内山孝子、高橋智子、小嶋奈都子、浅井百合絵、井本由希子、鬼澤宏美、岸達也、久保田貴博、菅原裕美、丹下キヌ子、デッケルト博士、ハーネド明香、佐藤琴美、篠原聡志、森田有紀

#### (2) 教育内容

東京医療センター11 病棟に学生を配置し、受持ち患者の看護過程を展開することを通して、個別性に応じた必要かつ適切な看護を実践するための基礎的能力を養うことを目指した。感染対策のため臨地・学内を組み合わせた実習であったが、病棟における指導やカンファレンスの他、学内担当教員による指導も充実させた結果、学生は日々思考を整理・深化させることができたと評価していた。次年度も状況に応じた指導体制を検討したい。

### 【成人・老年看護学領域】

#### 1. 教育方針

成人期と老年期を一連のライフサイクルとして捉え、幅広いライフステージの人々を対象とした看護実践能力の養成を目指している。アクティブラーニングを重視し、“tomorrow's Nurse”の資質の錬成につながる講義・演習・実習を展開していきたい。

#### 2. 科目名

##### 1) 成人看護学概論 1年次後期

- (1) 担当教員 竹内朋子

#### (2) 教育内容

成人期にある人々の身体・心理・社会的特徴と、成人看護学の基礎を理解することを目標とした。成人期の健康に関する疫学データ、生活習慣と健康問題の関連、成人看護に関する主要な諸理論、成人期の経過別看護の特徴について講義し、自己と他者の経験や意見を学習資源にできるよう、事前課題やグループディスカッションを活用した。成人看護学の導入となる科目であるため、次年度も成人看護の基礎を修得できる講義を目指したい。

##### 2) 老年看護学概論 1年次後期

- (1) 担当教員 新山真奈美、丹後キヌ子

#### (2) 教育内容

老年期にある人々の発達課題および身体・精神・社会的特徴等、高齢者を多角的に理解することを目標に進めた。高齢社会が直面する保健医療福祉の課題や老年看護の役割

を理解できるように、事前学習として小テスト、課題（高齢者の特徴・制度・倫理的課題）の提示やディスカッション、最新データの提示、高齢者疑似体験の演習を取り入れた。次年度も学生が高齢者に関心をもち、老年看護学を学ぶことの動機付けとなるように教授する。

### 3) 慢性期看護論 2年次前期

(1) 担当教員 松本和史、原口昌宏、井本由希子、丹後キヌ子、佐藤琴美

#### (2) 教育内容

慢性疾患をもつ対象者の受容過程をふまえ、セルフケア能力を高めるための援助について理解することを目標とした。器官系統別に代表的な慢性疾患とその看護について講義した。授業内容に関するテストを毎回実施し理解が深まるよう促した。視聴覚動画による事例演習や看護技術演習も行い、実践的な理解を深めた。看護をより実践的に理解できるよう、次年度は看護過程に関する演習を加えた授業を行う。

### 4) 老年看護実践論 2年次前期

(1) 担当教員 新山真奈美、井本由希子、丹後キヌ子

#### (2) 教育内容

老年期にある対象の健康障害・症状経過の特徴の理解やその看護、看護過程展開能力の習得を目標に進めた。事前学習として各回に小テストや課題を提示し、学修する意義を理解できるよう動機づけを図った。演習では、高齢者の生活機能やストレスを活用した看護過程展開演習、高齢者に行われるケア（排泄、移乗・移動、食事等）を中心に技術の演習を行った。次年度も学生が主体的に学び、看護実践能力の基盤となる授業展開を行う。

### 5) 家族看護学 2年次後期

(1) 担当教員 松本和史

#### (2) 教育内容

病気や障害が家族に与える影響と家族が障害や患者に与える影響について理解し、家族を単位として展開する看護について学ぶことを目標とした。家族看護に関する講義に加え、家族看護事例の演習をグループワークで行い、考えを他の学生と共有することで、家族の複雑な問題を多角的に考える力を養った。家族看護の実者による講義も取り入れた。次年度も、講義とグループ演習を取り入れた授業構成とする予定である。

### 6) 老年生活支援実習 2年次後期

(1) 担当教員 松本和史、新山真奈美、高田由紀子、原口昌宏、井本由希子、丹後キヌ子、佐藤琴美

## (2) 教育内容

介護保険施設で暮らす高齢者の生活と看護師の役割を理解することを目標とした。臨地実習(5日間)と学内実習(5日間)で実習を展開した。COVID-19の影響により一部施設での実習が中止となり、代替実習となった学生がいた。臨地実習では、施設の役割や構造の理解、コミュニケーションを通して高齢者の理解を図った。学内実習では、レクリエーションや高齢者福祉機器などについて学修した。カリキュラム変更に伴い、本科目は本年度終了となる。

## 7) 急性期看護論 3年次前期

(1) 担当教員 高田由紀子、原口昌宏

### (2) 教育内容

急性期にある対象の身体的・心理的・社会的特徴と生命維持、術後合併症予防、回復に向けた看護について理解することを目標とした。周術期看護、救急看護・重症ケアの講義を通して侵襲による変化や合併症予防について理解できるようにした。代表的な疾患の病態と手術を中心とした治療について講義を行い、特有の合併症や看護についての理解を深めた。次年度も、後期の急性期看護学実習における患者理解と実践に活かせる授業を目指す。

## 8) 終末期看護論 3年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子

### (2) 教育内容

終末期にある対象の全人的苦痛を緩和するための看護、臨死期・死亡直前期・死後の看護、終末期患者家族へのグリーフケアについて理解することを目標とした。死すべき存在を対象とする医療職を目指す者として、自己と他者の経験や意見を学習資源にできるよう、事前課題やグループディスカッションを活用した。次年度も、終末期看護の実践能力向上につながる講義を目指す。

## 9) 成人看護の探求 3年次後期

(1) 担当教員 竹内朋子、新山真奈美、松本和史、高田由紀子、原口昌宏

### (2) 教育内容

成人看護にまつわる今日的課題について知り、看護師としての自己の見解を論述できることを目標とした。様々な課題についての最新の動向や研究知見にもとづいて講義し、自己と他者の経験や意見を学習資源にできるよう、事前課題やグループディスカッションを活用した。次年度も、看護師として幅広い視野を持ち、論理的に他者と議論する力を養う講義を目指す。

10) 成人看護実践論 3年次前期

(1) 担当教員 松本和史、高田由紀子、原口昌宏、井本由希子、丹後キヌ子、佐藤琴美

(2) 教育内容

成人看護に必要な看護技術を理解し個別性のある看護過程を展開できることを目標にした。看護技術に関しては、酸素療法、血糖測定、一次救命処置などの看護技術の演習を対面で行った。シミュレーション演習を取り入れ、学生が臨床現場をイメージして主体的に学修できるよう工夫した。看護過程に関しては、教育用電子カルテでの看護事例を用いて、より実践的な理解を促した。次年度も演習中心の内容として、実践力向上を図りたい。

11) 急性期看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 高田由紀子、原口昌宏

(2) 教育内容

外科系病棟1週間、手術室及び救命救急センター1週間の計2週で構成した。学生個々の習熟度を実習指導者と毎日確認し、退院後を視野に入れた急性期の看護過程展開と実践の評価を指導した。実習レポートでは、術後合併症予防にむけた観察や早期離床の促進のほか、看護師の役割などが理解できた実習となっていた。次年度も、実習との連動性を高めた前期の演習や講義、課題と統合して急性期看護実践の習得を目指す。

12) 慢性期看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 松本和史、佐藤琴美

(2) 教育内容

患者の退院後の生活の再構築に向けセルフマネジメント能力を高めるための看護を学ぶことを目的に行った。臨地実習では慢性疾患をもつ患者1名を受け持ち、看護過程の展開を行った。また、退院支援看護師の講義を取り入れ、病棟看護以外の看護師の役割も多角的に学べるよう工夫した。次年度も、患者の今後の生活を見据えた看護実践能力を高める内容としたい。

13) 終末期看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 竹内朋子、井本由希子

(2) 教育内容

各学生が終末期患者1名を受け持ち、終末期の全人的苦痛を緩和するための看護、臨死期・死亡直前期・死後の看護、終末期患者家族へのグリーフケアを看護過程にそって実践した。次年度も、終末期にある患者と家族への緩和ケアを実践する能力を養成していきたい。

#### 14) 老年看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 新山真奈美、丹後キヌ子

##### (2) 教育内容

急性期病院の高齢患者を受け持ち、NANDA-I 看護診断を用いた看護過程を展開した。高齢者を全人的に捉え畏敬の気持ちで関わること、看護ケアの実践や多職種連携、退院支援が経験できるように実習指導者と調整した。COVID-19 の影響による代替実習時は、受け持ち患者情報を元に、立案した看護計画の実践や記録指導を行い、臨地実習を実施できた学生との学習の差異がないように努めた。次年度も感染防御を徹底し、老年看護の看護実践能力を高める実習を目指す。

### 【小児看護学領域】

#### 1. 教育方針

健康・不健康を問わず、子どもとその家族・取り巻く社会を理解し、発達段階に応じた専門的知識に基づく技術の実践できる能力を養うことを目的とし小児看護学概論・小児看護実践論・小児看護学実習の3科目の構成。

#### 2. 科目名

##### 1) 小児看護学概論 2年次後期

(1) 担当教員 中島美津子、玄順烈、永井史織

##### (2) 教育内容

小児各期の成長・発達理論、小児医療の歴史的変遷、倫理、理念および身体機能を学び、現代の小児看護の役割と課題を明確にすることを目的とした。講義は対面講義中心とし、授業で毎回グループワークを実施。子どもを取り巻く社会的情勢を盛り込んだ外部講師からのリアルな現場の話も組込んだことで、毎回の授業評価及びアンケートでもグループでの学びの共有や生の講義が好評であった。次年度も社会変化に則した講義展開としたい。

##### 2) 小児看護実践論 3年次前期

(1) 担当教員 中島美津子、玄順烈、永井史織

##### (2) 教育内容

子どもの病状や経過、子ども特有の症状に応じた看護実践に必要な基礎的知識を学び、子どもの健康障害の回復や成長発達の促進に向け、子どもとその家族の援助方法を理解することを目的とした。講義は対面中心、急性期から終末期までの経過別、障害のある子どもとその家族の看護などの事例、及び事例に想定される技術演習を実施。遠隔実演での技術評価とした。次年度も実習に繋げられるような新事例とその技術演習としたい。

### 3) 小児看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 玄順列、中島美津子、永井史織

#### (2) 教育内容

小児看護実践に必要な基礎的能力の理解と実践を目的とした。実習は、東京医療センター5B病棟、成育医療研究センター（病棟2か所）の2施設使用。1週間病棟1週間は子どもの理解を目的に世田谷区立保育園での実習とした。指導者と教員や多職種とのカンファレンスから子どもが示す反応の意味、子どもの力を発揮させる援助の工夫、家族との情報共有方法、非言語的コミュニケーションなどの実際を学べていた。

## 【母性看護学・助産学領域】

### 1. 教育方針

女性のライフサイクル（乳幼児期・思春期・成熟期・更年期・老年期）およびマタニティサイクルにある妊娠・分娩・産褥・新生児の生理・病態と母子およびその家族への援助理論と方法について学ぶ。

### 2. 科目名

#### 1) 母性看護学概論 2年次後期

(1) 担当教員 朝澤恭子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

#### (2) 教育内容

内容は、母性の概念、セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ、母性看護の歴史と母子保健統計、女性のライフサイクル各期の健康問題と看護であった。講義の他に事例検討、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを用いた。次年度も講義内容と教材を精選し、ICT活用とアクティブラーニングの実施に取り組む。

#### 2) 母性看護実践論 3年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

#### (2) 教育内容

内容は、主に妊娠期・分娩期・産褥期のある女性と新生児に対する看護である。授業は、講義と演習により構成した。事例検討、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション等のアクティブラーニングを用いた。母性看護技術演習では確認テストを実施した。次年度も講義内容と教材を精選し、ICT活用とアクティブラーニングの実施に取り組む。

#### 3) 母性看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 朝澤恭子、小嶋奈都子、鬼澤宏美

## (2) 教育内容

東京医療センターおよび玉川病院において臨地実習を 90 時間実施した。学生は産後入院中の母子 1 組を受け持ち、看護過程を展開するとともに、母子の健康状態の観察、褥婦への癒しケア、新生児の沐浴またはドライテクニック等の看護を実践した。また妊婦の健康診査についても一部実践した。次年度は沐浴や分娩見学等がより多く実施できるよう、調整する。

## 4) 疾病と治療Ⅳ 2 年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子、金子あけみ、門間哲雄

### (2) 教育内容

内分泌疾患、女性生殖器疾患、泌尿器疾患における病態生理と治療、看護であった。解剖学、病態生理学等の知識を想起させ、関連づけて体系的に学ぶように計画した。病態生理の図解、反復強調、動画や静止画の視聴、ミニテスト、国家試験問題の解説等の工夫をした。乳房モデルを用いた自己検診体験などのアクティブラーニングも取り入れた。次年度も知識の定着を促す工夫をし、ICT とアクティブラーニングを取り入れる。

## 【精神看護学領域】

### 1. 教育方針

精神・身体・知的を含む三障害の概念や特性の理解を目的とし、歴史的背景や基礎的知識、看護援助の習得に関するカリキュラムを実施している。障害者を取り巻く現状や課題に、主体的な言動ができる態度を身につけてほしいと願っている。

### 2. 科目名

1) 看護倫理 1 年次後期

(1) 担当教員 田中留伊、朝澤恭子、玄順烈、中村裕美、菅原裕美

### (2) 教育内容

本科目は看護実践における倫理の重要性や倫理的課題の解決方法を理解し、人権擁護の視点から、看護師としての責務を果たせる専門職の育成を目的としている。医学的知識や実習経験が少ない 1 年次後期科目のため、授業では身近な事例や問題を提示し、倫理的問題に対する関心を高められるよう工夫を行った。また、授業終了後は小レポート提出を求め、一方向の授業にならないように心がけた。次年度も引き続き上記の取り組みを行っていききたい。

2) 臨床コミュニケーション論 2 年次前期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、菅原裕美

### (2) 教育内容

自己のコミュニケーションについて洞察及び啓発を目的とした科目である。日常場面のコミュニケーション技術について、陥りがちな課題に焦点を当てながら、段階的に実際の臨床場面での効果的なコミュニケーションを考察できる構成とし、主体的に参加できるよう体験型授業展開を行った。次年度以降も、専門的で相手の立場に立った自分らしいコミュニケーションを常に模索していけるような授業展開を心がけていきたい。

### 3) 精神看護学概論 2年次後期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、菅原裕美

#### (2) 教育内容

初学者であるため、理解しやすい用語や内容で精神看護について関心が持てるよう心がけた。こころの働きや精神的健康、障害の概念や歴史的背景が理解できるよう工夫し作成した教材を用い、精神障害者の健康増進・ノーマライゼーションを推進するために必要な基礎的知識を習得できるよう展開した。授業内で発言できる機会や授業終了後の小レポート提出など学生が主体的に取り組める配慮を行った。次年度も引き続き上記の取り組みを行っていきたい。

### 4) 精神看護実践論 3年次前期

(1) 担当教員 中村裕美、田中留伊、菅原裕美

#### (2) 教育内容

精神障害を持つ対象の理解が深まるように、主な精神疾患や症状についてオリジナルの教材を用いて授業を展開した。また、精神障害をもつ対象の支援に必要な看護技術が考えられるよう個別で事例展開をし、全体で発表会を行うことでアクティブラーニングを取り入れ学習を深めた。さらに、授業後の小レポートの内容を踏まえ次回の授業では学生の理解しにくい点を補足できるような工夫を行った。次年度以降も上記取り組みを継続していきたい。

### 5) 障害者看護論 3年次後期

(1) 担当教員 中村裕美、田中留伊、菅原裕美

#### (2) 教育内容

精神・身体・知的の三障害を持つ対象を理解できるように、オリジナルの教材にて授業を展開した。重症心身障害、神経難病の具体的な看護実践や支援方法については、臨床で看護を実践している講師を招き、生きた看護を学べるよう工夫した。また、今年度からの取り組みとして、自己の障害者観を深めることを目的としたグループワーク及び発表会を実施し、個々の障害者観を考える機会とした。次年度以降も上記取り組みを継続していきたい。

## 6) 精神看護学実習 3年次後期

(1) 担当教員 田中留伊、中村裕美、菅原裕美

### (2) 教育内容

本実習では、精神障害者を包括的に理解するとともに、自立および自己実現に向けた援助を通し、必要な看護が実践できる基礎的能力を育成することを目指した。臨地実習では、学生は1人の受け持ち患者を通して看護過程の展開を行い、また、電気けいれん療法等の専門的な治療を見学したことで、精神医療の実際及び保健医療福祉チームの現状や課題について考えることができた。今後も、実習指導者との連携を密に行い効果的な指導を検討していきたい。

## 【地域看護学】

### 1. 教育方針

地域看護学領域では、地域で暮らす様々な健康段階にある人々が主体性をもち生活するために必要な支援について、理論や技術および諸制度を通して学ぶことを目的とする。科目は、地域看護学と在宅看護学で構成される。

### 2. 科目名

#### 1) 地域看護学概論 1年次前期

(1) 担当教員 明石眞言、佐藤潤、駒田真由子

#### (2) 教育内容

カリキュラム改正により初めて実施した科目であった。①暮らしを理解するとともに暮らしが健康に与える影響を理解する。②地域住民を取り巻くさまざまな環境を理解する。③地域のいろいろな場所で働く看護職について理解する。④自身の目で地区踏査を行うことができる。といった4つの目標を立て、1年次前期の学生に地域に目を向ける視点を伝えした。次年度以降も学生の理解度や反応を見ながら改善していきたい。

#### 2) 自立支援教育論 1年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子、赤石春佳、篠原聡志

#### (2) 教育内容

2年次後期にあったものの、今回カリキュラム改正により1年後期に初めて実施した。様々な健康課題を抱えた対象に対して、課題解決に向けた様々な理論を提示し、自立支援へとつなげる具体的な手法を講義で紹介した。今年度は地域住民を対象として設定した健康教育に学生が取り組み、グループで対象者や媒体を選んで、実際に地域住民に実施することを想定した演習を行った。次年度は、媒体作成時に、さらに学生が主体的に取り組めるように支援していきたい。

### 3) 地域看護学概論 2年次後期

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

人々の生活の質の向上とそれを支える健康で安全な地域社会の構築、健康と安全を支援することにより生活の継続性を保障し、生活の質の向上に寄与、多様な場で生活する様々な健康レベルにある人々を対象とし、その生活を継続的・包括的にとらえることを学ぶ。次年度は、社会の動きと学生の考えを積極的に取り入れた内容としたい。

### 4) 疾病予防看護学 2年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子、赤石春佳、篠原聡志

(2) 教育内容

プライマリヘルスケアやヘルスプロモーションの基本的考え方、**Social determinants of health** と健康増進施策、健康格差について、最新の法改正や世界における課題についても含めて講義を構成した。ナッジ理論についても講義し、健康行動の変容に活かす必要性や方法について考え、学んでもらうことに努めた。説明方法の工夫により、学生の理解度が高くなっていると感じたため、次年度は、さらに理解度が高められるように展開したい。

### 5) 自立支援教育論 2年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子、赤石春佳、篠原聡志

(2) 教育内容

様々な健康課題を抱えた対象に対して、課題解決に向けた様々な理論を提示し、自立支援へとつなげる具体的な手法を講義で紹介した。今年度は地域住民を対象として設定した健康教育に学生が取り組み、グループで対象者や媒体を選んで、実際に地域住民に実施することを想定した演習を行った。旧カリキュラムであり今年度最後の実施であった。

### 6) 在宅看護学概論 3年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、佐藤潤、篠原聡志

(2) 教育内容

在宅看護が要請される社会的背景や法制度の変遷および教育の動向を踏まえ、在宅看護過程に用いる ICF 理論や家族システム理論等についてペーパー事例を通して実践的に学ぶことを目的とした。また家族介護者理解を深めるために、介護離職、ヤングケアラーなどの時事的問題を取り上げ、看護職としての介護者支援のあり方を提示した。次年度は、リアクションペーパーによる授業に対する質問・意見の把握とフィードバックに努め、課題等の改善を図りたい。

#### 7) 在宅看護実践論Ⅰ 3年次後期

(1) 担当教員 大越扶貴、駒田真由子、篠原聡志

##### (2) 教育内容

前期の概論内容を深めつつ、神経難病・がん等医療依存度の高い事例、認知症など社会的問題を抱える事例を用い、既習の知識の統合と応用が図れるようシラバスを工夫し演習を行った。また DVD 視聴（住環境が療養者や介護に与える影響）や事例を通して、アセスメント技術の向上を図ったほか、アドバンス・ケア・プランニング（以下 ACP）や在宅におけるリスクマネジメントの理解を促した。次年度は、今年度同様 ACP に関わる事例演習を個人とグループワークで実施し、多様な視点を学ぶ機会を提供したい。

#### 8) 在宅看護実践論Ⅱ 4年次前期

(1) 担当教員 佐藤潤、駒田真由子、赤石春佳、篠原聡志

##### (2) 教育内容

主に実習に向けての準備として、介護保険におけるケアマネジメントおよびペーパー事例を通して在宅看護過程の展開技術を身につけるための演習を行った。COVID-19 の影響で演習方法が限られたため、学生の集中力や学びの順序性という観点からも多大な課題を残してきた。次年度も、引き続き演習の順序性と内容の見直しを図りたい。

#### 9) 在宅看護学実習 4年次前期

(1) 担当教員 明石眞言、佐藤潤、駒田真由子、赤石春佳、篠原聡志

##### (2) 教育内容

今年度は3年ぶりに臨地実習を行うことができた。療養者・家族が自立・自律した生活を営むために必要な保健・医療・福祉の連携の実際を学び、地域包括ケアシステムの中の看護の役割を考察してもらうなど、目標は例年通りであったものの、ここ数年の COVID-19 の影響で基礎実習や各論実習の臨地実習に制限がかけられた学年であり在宅看護学実習で臨地に行けたことに関しては大きな学びになった様子であった。次年度は事前課題の改善を図りたい。

## 6-2. 大学院看護学研究科

### 【高度実践看護コース】

#### 1. 教育方針

クリティカル領域における診療看護師（NP）の役割を理解し、専門性の高い、高度な実践力をもって役割を遂行できる能力を習得した診療看護師を育成することを目標としている。チーム医療の一員として患者の状況・病態を的確に把握し、自ら考え、判断し、安全性を確保した上で、必要な診療行為・ケアが確実に提供でき知識・技術・態度を習得する。今年度は、演習、実習の一部を、本コースの修了生（診療看護師：NP）で、臨床現場で活躍している診療看護師（NP）が分担し、年2回開催した臨床教授会にも、一昨年度から臨床実習指導者として参加した。

#### 2. 科目名

##### 1) クリティカルNP特論 1年次前期

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之、武田純三、鈴木美穂

##### (2) 教育内容

NPを導入している先進国、とくに米国におけるNPの現状等を把握するために、米国で実践活動をしているNPやNPと活動した経験をもつ医師等の講義を受け日本における診療看護師の現状および課題等について理解を深めた。統合実習の前後にて特定行為に関する手順書を作成し、医師も含めたスーパーバイズを受けた。診療看護師（NP）を取り巻く行政や各学会の動向について適時、学生に情報提供および指導内容に含めていく必要がある。

##### 2) 人体構造機能論・演習 1年次後期～2年次前期

(1) 担当教員 忠雅之、松本純夫、石志鉦、川岸久太郎、今西宣晶

##### (2) 教育内容

本年次より通年の科目となった。学内で医師から全身の構造機能についてスネルのテキストで医師レベル内容の講義を受けて全員が同様の共通知識を持ち、慶応大学医学部の解剖学教室に1日行き、医学部生と同様な実習を行っている。その後に国際医療福祉大学医学部解剖学教授による解剖演習・実習を成田の医学部解剖学教室を使い具体的に1日実践していき、具体的に学びを深めていった。

##### 3) クリティカル疾病特論 1年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、牛窪真理、小林佳郎、池上幸憲、須河恭敬、吉川保、安富大祐、谷本耕司郎、樫山幸彦、門松賢、川口義樹、福原誠一郎、山根章、小山田吉孝、林拓郎、尾藤誠司、栗原智宏、鈴木亮、森伸晃、岩田敏、忠雅之

##### (2) 教育内容

クリティカル領域において頻度の高い疾患について、医学的根拠に基づく判断能力と問題解決能力を修得するために、各疾病の病因、病態生理等の基礎的な知識を学んだ。具体的な授業展開は、グループ毎に課題症例を設定し、文献的な検討を行いながら、講師から指導を受け、プレゼンテーションを行い、発表後に講師から指導をうける形式で行った。さらに学生の学修効果を高めるためには、事前学修、事後学修の徹底を図る必要がある。

##### 4) 診察、診断学特論（包括的健康アセスメント） 1年次前期

(1) 担当教員 小野孝二、山西文子、尾藤誠司、上野博則、樫山幸彦、栗原智宏、白石淳一、北沢敏男、長谷川栄寿、樋口順也、武山茂、福原誠一郎

##### (2) 教育内容

患者の病態に対応した症状アセスメント、診察ができるための知識を習得することを目的にした科目である。診察、生理学的諸検査で得られた所見等を用いて、診断が確定できる能力を修得することができた。個々の患者に対応した的確な診察の方法、診断のために必要な臨床検査の選択、検査結果の解釈、撮影から読影迄のプロセスと医師による読影法などを学び、診断のプロセス等を実際のデータ等を使用して理解を深めることができた。

#### 5) フィジカルアセスメント学演習 1年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、忠雅之、小山田吉孝、池上幸憲、安富大祐、鄭東孝、森岡秀夫

##### (2) 教育内容

患者の健康問題を解決する上で必要とされ、身体的・包括な機能評価のためフィジカルイグザミネーションについて、学生がインストラクターとなってグループ学習を展開した。アクティブラーニングを対面およびオンライン授業にて展開したが、今後は後半の医師の講義に先立ち前半のまとめにて臨床推論の要素をより多く取り入れて疾患を思考する身体診察する時間を設ける必要がある。

#### 6) 臨床推論 1年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、尾藤誠司、鄭東孝、山下博、鈴木亮、南修司郎、安富大祐、太田慧、栗原智宏、辻崇、古野毅彦、吉田哲也、野田徹、三春晶嗣、門間哲雄、忠雅之

##### (2) 教育内容

クリティカル領域で遭遇する症状や状態に応じた臨床推論ができるよう、その過程を学び、それを裏付けるためのフィジカルアセスメント・検査を行い、症状に応じた的確な判断・臨床推論ができるための知識・技術を習得する。臨床推論の実際について、事例を用いて医師の思考過程についても理解を深める。最も多い時間をかけて学修するように臨床教授の医師も積極的に協力してもらい、実習時に繋がるような指導をしてもらっている。

#### 7) 診断のためのNP実践演習 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、山西文子、忠雅之、樋口順也、鈴木亮、太田慧、鄭東孝、尾藤誠司、安富大祐、池上幸憲、栗原智宏、辻崇、早川隆宣、高以良仁、森泉元、中村英樹、川名由美子、青木瑞智子

##### (2) 教育内容

クリティカル領域において対応する可能性の高い患者のフィジカルアセスメントができ、必要とされる臨床検査の選択を安全かつ確実に実践するための知識、技術の修得を目的とする。特定行為2行為についてOSCEを実施し履修生の技術習得度を評価した。今後は授業内容と関連させて評価方法を洗練していく必要がある。患者の実際の画像を用いて画像診断の進め方、トリアージの概念、機能、方法を学ぶ学生たちが診療行為(特に省令に定められた特定行為)毎の手順書を作成し、臨床実習の際の資料として活用し統合実習の際の指導医師の理解も深まりつつある。

#### 8) 臨床薬理学特論 1年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、廣田孝司、青山隆夫、大島信治、池上幸憲、吉川保、福原誠一郎、須川恭敬、森伸晃、忠雅之

##### (2) 教育内容

本科目はクリティカル領域で使用頻度の高い薬物療法について確認し、各種薬物と生体との反応機序、薬物の効果に個人差が生じる要因等について理解し、安全な治療を進めるために必要な知識を身に付けることを目標とする。外部講師による講義で薬事法を含む薬物の安全管理と処方について理解を深め、更に、臨床現場の専門医から指導頂いた。学生には苦手意識が見られるが、動機づけはされたので、今後は各学生の個人学修に拠る。

#### 9) 治療のためのNP特論 1年次後期

(1) 担当教員 大島久二、浦中桂一、忠雅之、安村里絵、吉川保、川口義樹、大石崇、小山孝彦、林拓郎、大迫茂登彦、石志紘、尾藤誠司、山下博

#### (2) 教育内容

クリティカル領域の患者に対する治療法およびその適応について科学的根拠に基づいて理解する科目である。治療の生体へのメリット、デメリットを理解し、治療の立案、変更、終了などの判断が的確に実行できるための知識を修得することができた。消化器系手術、呼吸器系手術、脳の手術、心・大血管系の手術を取り上げ、手技に関する基本的事項、輸血、感染予防などを専門医から直接指導を受けることができた。

#### 10) 治療のためのNP実践演習 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、山西文子、忠雅之、内藤亜由美、池上幸憲、小井土雄一、佐々木毅、森伸晃、太田慧、木下貴之、宮田知恵子、小山田吉孝、吉川保、栗原智宏、川口義樹、落合博子、小山孝彦、若林和彦、鄭東孝、安富大祐、鈴木亮、森岡秀夫、正岡博幸、門松賢、門間哲雄、青木美絵、森泉元、青木瑞智子、重富杏子、筑井菜々子、石渡智子

#### (2) 教育内容

選択した治療法の科学的な根拠を理解し、患者への説明と、患者の同意のプロセス、選択した治療を的確に実行できるための技術を修得する。また、治療の際の診療看護師としての役割と限界を認識することの重要性を学んだ。今後も救急・重症患者の管理方法、集中治療の管理方法、がん化学療法とペインコントロールの方法、人工呼吸器・気管挿管・抜管・縫合・圧迫止血・経腸栄養・中心静脈ライン確保・褥瘡の治療方法などの処置等について、適用する目的、手順を、演習を通して学べるよう学習環境を整えていく。また特定行為6行為についてOSCEを実施し履修生の技術習得度を評価した。今後は授業内容と関連させて評価方法を洗練していく必要がある。

#### 11) 統合演習 2年次前期

(1) 担当教員 浦中桂一、山西文子、忠雅之、鈴木亮、太田慧、林智史、吉田心慈、冷水育、中村英樹、石渡智子、高以良仁、山森有夏、森泉元、川名由美子、青木瑞智子、TA 数名

#### (2) 教育内容

救急外来、内科外来、一般病棟における診療看護師(NP)としての役割や臨床推論を活用した患者の病態や必要な検査・治療について考えることができることをねらいとした。これまでの看護経験と1年間学修してきた医学知識を統合し、外傷事例、心窩部痛事例、呼吸器疾患事例を用い、リーダーシップ、メンバーシップをとりながらチームパフォーマンスが最大限に機能できる基本的能力を養う内容とした。今後控えているOSCE試験や統合実習の良い動機づけとなった。

#### 12) 統合実習 2年次通年

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、岩本郁子、忠雅之、東京医療センター・災害医療センター・東京病院の臨床教授、JNP実習指導者他

#### (2) 教育内容

2年次7月から12月中旬までで17週間、国立病院機構東京医療センター、災害医療センター、東京病院の3施設において、救命救急科、総合内科、外科、麻酔科の各診療科をローテーションし、計17週の実習を行った。実習では、実習指導医の指導のもとで、患者を受け持ち、患者の診察・診断、治療の一連のプロセスを経験した。1年次に講義、演習を通して学んだ知識と技術を統合し、チーム医療の一員としての診療看護師の役割を意識しながら、実習に取り組んだ。学生が作成した38の特定行為の手順書を施設に提示し、省令に

定められている 38 の特定行為の実践経験を積み重ねるなど、積極的に取り組んだ。臨床指導医からの実習の評価も高く、全員が無事実習を修了することができた。統合実習の開始前、および終了後に本学およびオンライン形式において、計 4 回の臨床教授会を開催し、本学の教員も参加し、意見交換を行った。

#### 13) コンサルテーション・インフォームドコンセント特論 1 年次後期

(1) 担当教員 大島久二、忠雅之、高似良仁、平田尚子、尾藤誠司、木下貴之、岩田敏

##### (2) 教育内容

医療におけるインフォームドコンセントについて理解し、診察で得られた所見、画像診断やデータ分に基づく診断内容について、患者および患者の家族の状況に応じて分かりやすく説明できるように、具体的事例を取り上げて、検討し、その結果を発表し討議を行った。さらに看護におけるコンサルテーションの基本理論とインフォームドコンセントとの関連について考察を実施した。

#### 14) NP によるチーム医療特論 1 年次前期

(1) 担当教員 忠雅之、尾藤誠司、中村香代、川村和也、島田珠美、平田尚子

##### (2) 教育内容

チーム医療におけるスキルミックス、タスクシフティング、タスクシェアリングについて理解を深め、チーム医療のキーパーソンとしてチーム医療のガイドライン等を活かし、社会から求められているチーム医療の在り方を探求した。また、チーム医療に係わる職種の役割分担、協働のあり方を再考し NP としての自己の考え方を明確にするよう意識化してきた。

#### 15) 医療安全特論 1 年次後期

(1) 担当教員 山西文子、忠雅之、大島久二、木下貴之、岩田敏、松浦友一、坂元与志子

##### (2) 教育内容

医療事故等は、日常的に起こる可能性があることを認識し、事故の発生を防止し、患者の安全が最優先事項であることを理解することができた。医療事故を防止するためには、医師の指示を批判的に思考する力、危険を回避するために医療行為の優先度を決定する力、患者に不利益な状況が生じている場合に対象に情報提供できる力、対象が受ける治療や処置に伴う有効性や危険性を患者が分かるように説明できる力などを習得することが必要であることを学んだ。GW を通して日本で実際にあった特定行為に係る事例を取り上げ、既存の理論を使用して分析し、主要な原因や関連する要因、解決までのプロセスについて検討し、その結果を発表し、さまざまな防止方策を修得することができた。

#### 16) 政策医療特論 1 年次前期

(1) 担当教員 大島久二、山西文子、松本純夫、加我君孝、女屋光基、石原傳幸、當間重人

##### (2) 教育内容

民間病院に任せるだけでは不十分と考えられ、国が医療政策を担うべき医療であると定められている「政策医療」(19 の医療分野)について、理解を深めることができた。政策医療を担っている国立病院機構の管理者から、政策医療に関する歴史的経緯と現状、課題、将来展望等の講義を受け、政策医療の対象になっている患者に遭遇した場合の診療看護師として対応について学んだ。

#### 17) 感染症マネジメント 1 年次後期

(1) 担当教員 山西文子、大曲貴夫、森伸晃

##### (2) 教育内容

高度実践公衆衛生看護コースと NP コースの前半 1 単位分は合同講義を実施。感染症一

般の原因、法的診断分類、治療法について網羅し、必要な知識を学ぶことが出来た。その後、後半 NP コースは約5名のメンバーに分け、クリティカル領域において NP が施設の部署で出会う可能性のある感染症について優先度の高い順に感染症を想定し、グループで展開し大曲先生の指導を受け、具体的な手順まで展開し、最後発表会を持ち共有した。

#### 18) 医療倫理特論 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、早川正祐

##### (2) 教育内容

各コースの看護職が、実践を行う中で引き起こされる倫理的意思決定の場面(事例)を取り上げ、臨床倫理の4分割法等理論を援用しながら検討・考察を行った。また、倫理的課題のある共通事例を用い、各コースをミックスしたグループで多職種および家族等も含め、本人にとって最善の方針について合意する方法を討議し発表・共有を行った。次年度は、グループで扱う共通事例の工夫を図りながら、各コースの専門的視点を活かした討議ができるようにしたい。

#### 19) ラボラトリー・メソッド特論 1年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、大島久二、明石眞言、小野孝二

##### (2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

#### 20) 保健医療福祉システム特論 1年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ、清水美智夫、非常勤講師(平野方紹)

##### (2) 教育内容

保健医療福祉分野における法制度及び背景にある政策決定プロセスを学習するため、社会保障システムを主軸に様々な統計データを用いて解説した。これらの知識を踏まえ、学生個々の関心のある保健医療福祉に関する法制度を取りあげ、課題解決に向けた政策提案のプレゼンテーションと地域で保健師が果たすべき役割について討議し学習を深めた。

#### 21) 看護教育学特論 1年次前期

(1) 担当教員 松山友子、浦中佳一、忠雅之

##### (2) 教育内容

今年度は、看護職養成に関わる教育制度の理解に加え、高度実践看護職として教育的役割を果たすために必要な教育原理・方法の基礎知識について、院生によるプレゼンテーションを行った。授業設計の実際では、各自が選択した授業テーマについて指導計画・指導案を作成し、模擬授業を展開するとともに他者・自己評価を踏まえた今後の課題をレポートにまとめた。次年度は、指導案作成過程における各自の課題の検討を充実させたい。

#### 22) 看護管理学特論 1年次前期

(1) 担当教員 竹内朋子、松本和史

##### (2) 教育内容

看護管理の基礎知識、看護管理者の役割・機能を理解することを目標とした。2部構成とし、第1部では看護組織のマネジメント、第2部では看護組織における人的資源のマネジメントについて講義した。これまでに所属した看護組織や実在のリーダーを分析したり、看護管理者としての自己の資質を考察したりする演習も実施した。次年度も、診療看護師とし

て医療チームをマネジメントするうえで役立つ講義を目指したい。

23) 研究特論 1年次前期

(1) 担当教員 大島久二、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、朝澤恭子、浦中桂一、小宇田智子、高橋聡明

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

24) 原著論文購読 1年次前期

(1) 担当教員 明石眞言、田中留伊、浦中桂一、小宇田智子

(2) 教育内容

英文学術論文特に原著論文を読むための基本的な知識・技術を指導した。特に PubMed を活用しながら、医療・看護分野の英文原著論文を自ら探し、読む力および論理的思考力を養い、専門分野に関する情報収集能力を高められるような授業展開を工夫した。その上で、実際にクリティカル領域に関係した原著英文論文を読み、抄読会を行った。来年度も同様の内容で行う予定である。

25) 課題研究 1年次、2年次通年

(1) 担当教員 山西文子、浦中桂一、忠雅之、その他（教授・准教授・講師・助教）

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

学生氏名	指導教員	研究課題
KG021001	忠講師	高度急性期病院における診療看護師（NP）の活動の実態調査～医師との活動の比較に焦点をあてて～
KG021002	松本准教授	日本の診療看護師における燃え尽き症候群の実態およびストレス要因と緩衝要因の検討
KG021003	竹内教授	診療看護師（NP）の能力と態度に対する自己評価と他者評価
KG021004	松山教授	上半身 30° 挙上仰臥位および上半身 30° 挙上右側臥位が栄養剤の胃排出能にもたらす影響
KG021005	竹内教授	COVID-19 陽性患者との接触頻度別にみた看護師のストレス反応と職業性ストレス
KG021006	小野教授	救命救急センター退室患者の臨床的悪化を予測する NEWS と NEWS 2 の精度の比較に関する研究
KG021007	小野教授	心臓カテーテルセンターに従事する看護師の水晶体被ばく線量評価及び放射線防護の知識向上に関する研究
KG021008	明石教授	火山噴火災害時と原子力・放射線災害時の避難所における防護対策の比較－避難所における防護対策の共通点と相違点について－

KG021009	小宇田准教授	中鎖脂肪酸および低分子ポリフェノールの摂取が脂肪細胞に与える影響
KG021010	田中教授	我が国の救急医療における家族の意思決定に関する概念分析
KG021011	浦中准教授	診療看護師を有するCritical Care Outreach Team導入の評価—予期せぬ院内心配停止を指標として—
KG021013	中島教授	医療療養型病床に勤務する看護職の業務内容・多職種連携の可視化
KG021014	小宇田准教授	Lactobacillus plantarum Lysate はヒト臍帯静脈血管内皮細胞およびヒト真皮線維芽細胞のIL-8および VEGF-A の mRNA 発現を誘導し、血管新生を促進する
KG021015	中島教授	一般急性期病棟における看護職の業務プロセスを可視化する試み
KG021016	浦中准教授	急性期病院に勤務する若手看護師と初期臨床研修医の蘇生教育の実態とその認識
KG021017	田中教授	新型コロナウイルス感染症第5波における罹患患者の重症化因子の探索的研究
KG021018	高橋准教授	仰臥位制限下における後頸部温電法が心理面および生体に及ぼす影響
KG021019	玄准教授	訪問看護ステーションにおける看護師の業務内容の可視化
KG021020	玄准教授	肢体不自由特別支援学校で医療的ケアを担う学校看護師の役割—学校看護師業務と他職種連携の可視化からの考察—
KG021021	松本准教授	診療看護師が受けるコンサルテーションの実態
KG020022	明石教授	派遣医療チームにおける災害支援活動からみえた災害看護実践

## 【高度実践助産コース】（助産師免許プログラム・助産師プログラム）

### 1. 教育方針

専門性の高い実践力を備え、女性とその家族の生涯にわたる健康を支援できる自律した助産師の育成を目的としている。特に周産期医療における病院内外の助産システムに対応できる専門性の高い助産師の育成を目指す。

### 2. 科目名

#### 1) 助産学概論 1年次前期

(1) 担当教員 島田三恵子

#### (2) 教育内容

助産の基本概念と歴史的変遷から概説し、女性を取り巻く社会背景を認識し、助産師の責務と社会変化の中で期待される役割の重要性、さらに助産師活動に取り組む姿勢と魅力、それらを支えるために必要な看護政策を含め系統的に教授した。次年度も女性を取り巻く課題、母子保健の課題、医療政策・看護政策について講義とディスカッションを織り交ぜながら助産師のアイデンティティを獲得する動機づけとなるよう講義を工夫したい。

#### 2) 生殖機能学（正常・異常） 1年次前期

(1) 担当教員 加藤知子、山下博、大野暁子、真壁健、大木慎也、安達将隆

## (2) 教育内容

女性生殖器の解剖・生理、女性のライフサイクルを通じた性と生殖の健康問題、疾患及び異常に関する基礎的な知識の理解を深める講義を行った。また、助産師国家試験にて出題が増加している妊娠期の異常と婦人科疾患について講義内容を強化した。

## 3) 助産薬理学特論 1年次前期

(1) 担当教員 加藤知子、宇野千晶、中島研、伊藤直樹

### (2) 教育内容

薬理学の総論と基礎、妊産褥婦を対象とした和漢薬物の効用、副作用、拮抗作用、投与方法等について情報検索エンジンも含めて解説し、妊婦や授乳婦における催奇形性、胎児毒性、授乳中の安全性について薬物使用上の管理および留意点について理解を深め、各自が活用できるように講義をおこなった。近年の増加している無痛分娩に使用する麻酔薬等の薬剤についても更に深めて知識を習得できるように工夫する。

## 4) 助産栄養学特論 1年次通年

(1) 担当教員 加藤知子、北島幸枝

### (2) 教育内容

健康な女性の心と身体作りのための食事のあり方や出産適齢期の食生活の現状と課題を通して、健康な女性の身体作りに必要な栄養管理の知識を習得できるように講義をした。さらに、日本人の食事摂取基準を基本に、栄養アセスメントと栄養管理方法、乳汁栄養の栄養上の特性と問題点、補完食の進め方について、具体的な減塩食の献立作成と保健指導演習を通して実践力を習得できるように工夫した。次年度も実践への活用を進める。

## 5) 家族社会学特論 1年次通年

(1) 担当教員 島田三恵子、松島紀子

### (2) 教育内容

家族社会学についての基礎的な概念や内容を学び、現代の家族問題への理解と社会的対応について整理し、共働き家族、高齢者介護、児童虐待、ドメスティックバイオレンスなどの現代の家族問題について理解を深めた。さらに、リプロダクティブヘルス・ライツに影響を及ぼすジェンダー格差が健康にもたらす影響について学び、家族社会学の視点から人々をエンパワーメントする方策についてオンラインにて学習を試みた。

## 6) 助産フィジカルアセスメント学演習 1年次通年

(1) 担当教員 加藤知子、服部純尚、松井哲、忠雅之、田舎中真由美

### (2) 教育内容

妊娠・出産・産褥期を通して変化する女性の身体を理解する為に、フィジカルイグザミネーションの技術を用いて周産期の女性の全身の包括的アセスメントができ、正常異常の判断ができる助産実践能力の強化する演習を実践した。また、理学療法士の専門家による骨盤ケア技術の演習や、乳がん患者（産婦）への支援も必要であるため、乳がんについての基本的な診察技術についての講義・演習を行った。次年度も診断と実践力を強化できるように事例を工夫する。

## 7) 妊娠期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 加藤知子、和田誠司、島田三恵子、小嶋奈都子

### (2) 教育内容

妊娠期における女性の心身の生理的变化と妊娠期に起こりやすい異常、胎児の成長発達に関する基本的知識から最先端の胎児診断と胎児治療に関する知識まで幅広く知識を習得

できるように講義をした。

8) 分娩期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 島田三恵子、服部純尚

(2) 教育内容

分娩期における女性と胎児の生理的プロセスと生理的状态からの逸脱を診断する知識と分娩介助法と助産ケアの技術を習得する目的で、講義・演習を実施した。更に、産痛緩和法など女性に寄り添う助産実践力の向上に力を注ぎ、分娩期における助産師の判断能力と技を考察できるよう工夫した。高度実践助産を目標に、フリースタイル分娩介助の講義・技術演習を取り入れ、本来女性が持つ能力を引き出すケアの講義演習を展開した。

9) 産褥期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 島田三恵子、小澤千恵、デッケルト博子、浅井百合絵

(2) 教育内容

産褥期女性の身体的・心理的・社会的変化に応じた助産診断とケアを行うための基本的な知識と技術についての講義、演習を行った。近年、乳児虐待の予防対策が求められている事から、産後うつの基本的知識と周産期や地域での対応について講義を強化した。母乳育児支援として、乳房管理の理論と乳房ケアの基本技術の演習を行い、宮下助産院で実際を見学した。次年度は具体的な産褥期の女性のケアをできるように講義演習を充実させる。

10) 新生児期診断・技術学 1年次通年

(1) 担当教員 加藤知子、加部一彦、藤田恵理子、柳田亜紀子、鶴川花野

(2) 教育内容

新生児の生理について理解を深めるため、発育、生理機能・運動機能・精神機能の発達について知識を習得するための講義を行った。加えて、出生直後の新生児の計測方法、出生直後の全身観察の技術やNCPRの新生児蘇生法が実践との統合をおこなう演習を行った。また、ハイリスクな分娩や児にも対応できるようにハイリスク新生児や倫理的配慮も含めたNICUの看護も学ぶ機会を提供した。次年度も、胎児期からの予測を踏まえた新生児のケアが実践できるように工夫する。

11) 助産診断・技術学演習 1年次通年

(1) 担当教員 島田三恵子、馬場一憲、田谷中真由美、永森久美子、朝倉花、三浦加奈、加藤知子、デッケルト博子、浅井百合絵

(2) 妊娠期～産褥期・新生児期の助産診断と助産過程の基本と展開、妊娠期の保健指導・支援、正常分娩介助法の原理と演習、胎児心拍陣痛図による胎児診断、助産師のための超音波検査、助産実践演習OSCE、産後の骨盤調整、産後の生活支援について学んだ。更に、世田谷区産後ケアセンターに入所中の母子ケアの実際と運営を見学した。

12) 実践助産学特論 1～2年次通年

(1) 担当教員 島田三恵子、馬場一憲、田谷中真由美、永森久美子、朝倉花、三浦加奈、加藤知子、デッケルト博子、浅井百合絵

(2) 医学・助産モデルの両方の視点から助産診断・助産ケアを可能にするため、TEAM STEPPS、超音波検査法の基本、産科麻酔の実際、産科救急への対応、妊産婦の一時救命処置のためのBLS、新生児の救急蘇生NCPR(Aコース)の研修など、発展的・応用的な知識と技術を学習した。

13) 実践助産学演習 1～2年次通年

(1) 担当教員 加藤知子、和田誠司、小松久人、中根直子、酒井涼、下地富子、猪野幸峰

- (2) 教育内容 医学と代替医療を含めた、応用的な助産診断と助産ケアを可能にする知識と技術の演習をおこなった。医学・助産モデルの両方の視点から助産診断・助産ケアを可能にする発展的・応用的な知識と技術について学習し、実践力の強化することができた。

14) ウィメンズヘルス特論 1年次前期

- (1) 担当教員 島田三恵子、小林浩一、片岡弥恵子、朝澤恭子、加藤知子

(2) 教育内容

セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス、女性のライフサイクルに沿った健康問題に対する助産ケアに必要な基礎的能力を養い、女性の健康を支援するための研究・実践への理解を深め、ウィメンズヘルスにおける助産ケアを追究することを目標に展開した。思春期、成熟期、更年期にみられる健康問題、受胎調節の実地指導に必要な原理・知識・技術に関して、講義に加えてプレゼンテーションとディスカッションにて学習を進めた。

15) ウィメンズヘルス演習 1年～2年次通年

- (1) 担当教員 加藤知子、齋藤益子、島田三恵子、デッケルト博子、浅井百合絵

(2) 教育内容

思春期、成熟期、更年期、老年期、周産期のいずれか特定のライフステージにおいてヘルスケアニーズをもつ女性の特徴を分析し、ケアモデルを検討することを目標に展開した。思春期を対象に性教育指導案を作成し、都内の中学生を対象にグループ指導を実践した。中学生への指導により、対象の反応を見ながら進めることができ、有用であった。次年度は母親学級の教育プログラムの作成と実践を経験できるように進めていく。

16) 不妊症・遺伝看護学特論 1年次前期

- (1) 担当教員 朝澤恭子、小澤伸晃

(2) 教育内容

遺伝看護の対象となる家族性腫瘍、先天異常、神経難病等の患者および生殖医療の対象者と家族に対するアセスメントやケアを理解することを前提に展開した。主な遺伝性疾患の遺伝形式、クライアントが抱える課題と必要なケア、遺伝的な課題を持つ人々へのアセスメントの視点、不妊症の検査および治療、クライアントが抱える課題とケアに関して講義を進めた。不妊治療を受ける人々へのアセスメントの視点を理解できるよう展開した。

17) 助産管理学特論 1年次通年

- (1) 担当教員 島田三恵子、柴田仁夫、川岸真由美、野町寧都、平本康子、平井晶子、鈴木幸子、宮下美代子

(2) 教育内容

周産期における具体的な事故・判例から周産期のリスク管理を考察した。組織管理における基本概念とマネジメントの基本的考え方をドラッカー理論から学び、施設助産管理への応用を試みる講義をした。また、マーケティング理論、医療経済、関連法規及び周産期医療システム、目標管理、総合病院での助産師外来と院内助産（院内助産システム）の実際について、講義及びディスカッション形式で進めた。

18) 地域助産活動論 1年次後期

- (1) 担当教員 島田三恵子、岡本登美子、土屋清志、宮下美代子、氷見知子、藤田恵理子

(2) 教育内容

助産師の開業権を生かし母子および家族のニーズに沿った地域医療・地域助産活動について講義を展開した。満足度の高い「いいお産」の実現のために、助産所で取り組まれているフリースタイル分娩の実践力を身につけるために実践し、多岐にわたる助産師の活動

について体験的に学ぶ機会を設定した。助産師の開業権を活かした地域での母乳開業助産師を講師に招き（オケタニ式乳房管理法）の講義・演習を組み入れた。

#### 19) 地域母子保健学特論 1年次後期

(1) 担当教員 島田三恵子、福島富士子、大越扶貴、永森久美子、デッケルト博子

##### (2) 教育内容

地域母子保健の現状と課題、母子保健に関わる地域診断、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。加えて、学生が考える日本社会における母子保健の今日的課題について、現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、地域での助産師や保健師助産師が地域で果たすべき役割について、討論し学習を深めた。

#### 20) 地域母子保健学演習 1年次後期

(1) 担当教員 加藤知子、駒田真由子、デッケルト博子、赤石春香

##### (2) 教育内容

地域母子保健が抱える今日的課題についてグループワークを通して考え、地区診断により地域特性の理解、助産師・保健師として具体的な母子保健事業を考察することができた。妊産婦や乳幼児に対するアセスメントを通して、家庭訪問や保健指導、健康相談における支援の技術も身に付けることができた。

#### 21) 災害活動論 1年～2年次通年

(1) 担当教員 加藤知子、中根直子、高村ゆ希

##### (2) 教育内容

自然災害、人為的災害、混合型災害と、近年、増加する災害に対する定義、管理、根拠立法、防災体制など基礎的知識を学習し、災害時の母子に特有の課題、被災地での母子支援について学習した。具体的な助産師の活動および支援策についてディスカッションすることで、各自が平時からの備えを自分ごととして主体的に学習をすることができた。

#### 22) 国際助産学特論 1年～2年次通年

(1) 担当教員 島田三恵子、佐山理絵、渡辺洋子、谷口初美、デッケルト博子

##### (2) 教育内容

世界の助産実践と助産教育、母子保健における助産師の役割と実践活動、世界の産育習俗を社会・文化的背景から考察しながら、海外における国際助産活動の実際を学んだ。更に、学生が考える国内外における国際的な母子保健の今日的課題について、現状と必要と考える方策、助産師として果たすべき役割について、レポートにまとめて学習を深めた。

#### 23) 助産学基礎実習 1年次前期

(1) 担当教員 島田三恵子、加藤知子、デッケルト博子、浅井百合絵

##### (2) 教育内容

国立病院機構東京医療センターおよび国立病院機構埼玉病院で各4週間、国立成育医療研究センター及び国立病院機構相模原病院で各2週間、4施設で実習を行った。正常な妊娠・分娩・産褥・新生児期の経過をたどる対象の助産診断、分娩介助の実施、助産過程の展開を目標とした。COVID-19の感染対策強化のために実習内容や夜間のオンコール実習の制限があったが、4週間で2～4例/学生1名の分娩介助が実施できた。

#### 24) 助産実践力開発実習 1年次後期

(1) 担当教員 島田三恵子、加藤知子、デッケルト博子

##### (2) 教育内容

国立成育医療研究センターで4+1週間、国立病院機構埼玉病院4週間、国立病院機構

東京医療センター及び国立病院機構相模原病院で各2週間、4施設で実習を行った。分娩介助を中心として、正常経過中の妊娠・分娩・産褥・新生児期を対象に助産過程の展開と実践能力の修得をこの実習目標とした。4～5週間で4～7例/学生1名の分娩介助を実施できた。分娩直後の新生児の計測・NCPRの実践、知識と実践能力の強化が課題である。

#### 25) 助産実践力発展実習 2年次前期

(1) 担当教員 加藤知子、島田三恵子、デッケルト博子、浅井百合絵

##### (2) 教育内容

ハイリスク妊婦とハイリスク児を対象とした実習を、国立病院機構東京医療センターの産科病棟・産婦人科外来2週間、国立成育医療研究センターのNICU3日間、MFICU2日間で実習を行った。ハイリスク妊産婦および児について助産診断能力を強化し、ケアを実践することができた。次年度も同様により効果的な実習を調整する。

#### 26) 地域助産学実習 1年次後期・2年次前期

(1) 担当教員 加藤知子、島田三恵子、デッケルト博子、浅井百合絵

##### (2) 教育内容

いなだ助産院、さくらバース、とわ助産院、目白バースハウス、森重助産院、矢島助産院の6施設の助産院で実習をした。保健所実習は、大田区、台東区の各保健センターで実施した。地域助産学実習のねらいとして、助産師の役割、母子に関わる姿勢の根源や高度実践助産ケアについて、6週間という実習期間をかけ、これまでの実習を振り返りながら考察し、実践し知識と技術を習得した。次年度も同様により効果的な実習を調整する。

#### 27) EBPM 探究論 1年次前期

(1) 担当教員 朝澤恭子

##### (2) 教育内容

周産期女性の問題・疑問を定式化し、最適な文献を検索し、PICOを用いて批判的吟味を行った。助産領域のRCT論文を用いてPICO、ランダム割り付け、ベースラインの同等確認、Outcomeへの反映、ITT解析、脱落率、マスキング、結果の評価といった手順でクリティクを行い、エビデンスに基づいた結果の理解と批判的吟味を修得した。次年度も研究の学修に活かせるよう、助産領域のRCT論文を用いて実施する。

#### 28) 医療倫理特論 1年次前期

(3) 担当教員 大越扶貴、早川正祐

##### (4) 教育内容

各コースの看護職が、実践を行う中で引き起こされる倫理的意思決定の場面(事例)を取り上げ、臨床倫理の4分割法等理論を援用しながら検討・考察を行った。また、倫理的課題のある共通事例を用い、各コースをミックスしたグループで多職種および家族等も含め、本人にとって最善の方針について合意する方法を討議し発表・共有を行った。次年度は、グループで扱う共通事例の工夫を図りながら、各コースの専門的視点を活かした討議ができるようにしたい。

#### 29) ラボラトリー・メソッド特論 1年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、大島久二、明石眞言、小野孝二

##### (2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

30) 看護教育学特論 1年次前期

(1) 担当教員 松山友子、浦中佳一、忠雅之

(2) 教育内容

今年度は、看護職養成に関わる教育制度の理解に加え、高度実践看護職として教育的役割を果たすために必要な教育原理・方法の基礎知識について、院生によるプレゼンテーションを行った。授業設計の実際では、各自が選択した授業テーマについて指導計画・指導案を作成し、模擬授業を展開するとともに他者・自己評価を踏まえた今後の課題をレポートにまとめた。次年度は、指導案作成過程における各自の課題の検討を充実させたい。

31) 研究特論 1年次前期

(1) 担当教員 大島久二、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、朝澤恭子、浦中桂一、小宇田智子、高橋聡明

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

32) 保健統計学 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、原口昌宏

(2) 教育内容

研究論文の講読や分析の実施において必要な統計学の基本的な性質や考え方を理解し、統計ソフトを用いたデータ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。わかりやすい授業を心がけ既存の演習データを用いて、単変量解析および回帰分析について統計ソフトの実践演習を行った。今後は、論文等を例示するなどより実践的な学修計画を図っていく必要がある。

33) 高度実践助産学研究 1年～2年次通年

(1) 担当教員 島田三恵子、朝澤恭子、加藤知子、小嶋奈都子

(2) 教育内容

各院生が関心のある個別の研究課題を設定し、関連情報の文献検討、研究計画の大枠を立案し、1年後期に中間発表を実施した。その後、具体的な研究方法（調査票、フィールド開発）を進めながら、倫理申請の準備を行っている。研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。

34) 課題研究 1～2年次通年

(1) 担当教員 大島久二、田中留伊、島田三恵子、佐藤潤、その他全教員

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

学生	指導教員	研究課題
KG121001	加藤講師	災害時における平常時からの施設の備え -診療所・助産所に焦点をあてて-

KG121002	朝澤准教授	看護系大学生における DOHaD 説の認知の有無と体型意識および健康管理能力の関連
KG121003	朝澤准教授	未就学児の親における産後ケア施設利用の実態と要因
KG121004	島田教授	若年女性の食行動とコンビニ食の妊娠への影響について
KG121005	島田教授	産前教育に対する働いている母親の思いと潜在ニーズ
KG121006	島田教授	母乳哺育終了に伴う母親の思いとプロセス

### 【高度実践公衆衛生看護コース】

#### 1. 教育方針

本コースでは、理論や実践等を通して、複雑多様化している健康課題や健康危機に対応できる能力を養う。また地域特性を的確に把握し、ヘルスリテラシーやソーシャル・キャピタル等を高められる保健師育成を目指す。

#### 2. 科目名

##### 1) 公衆衛生看護学概論 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、佐藤潤、駒田真由子

##### (2) 教育内容

公衆衛生看護学の基本的な考え方および地域における看護活動の場と必要性について理解するとともに、保健師という職種に対する理解と関心を醸成しそのあり方を探求することを目的とした。講義は、公衆衛生看護の活動理念や歴史的背景を踏まえ、その活動が職業倫理を前提に法律や政策、理論等に基づいている内容とした。次年度は、公衆衛生看護活動のあり方が探求できるよう先駆的活動事例を含めるなど工夫を図りたい。

##### 2) コミュニティアセスメント論 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、駒田真由子

##### (2) 教育内容

地域診断に用いる理論の理解と現状の課題把握をするとともに、コミュニティーアズパートナーモデルを用い、地域診断の基本および方法を学ぶことを目的とした。保健師活動に必要とされる地域住民の健康や生活状況等、潜在・顕在的なニーズを把握するための情報収集、アセスメント・分析、課題の明確化と課題解決方法などを中心に講義および一部演習を行った。次年度は今年度同様、本科目とコミュニティアセスメント演習の科目間の連携を充実させる。

##### 3) 公衆衛生看護活動論 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、駒田真由子

##### (2) 教育内容

地域で生活する個人・家族・集団などの様々な対象者への支援方法（相談面接、家庭訪問等）について援用できる理論を用い、演習を通して理解を深めることを目的とした。今年度は問題のない新生児訪問事例を扱い、初回訪問や継続訪問のロールプレイを行った。本科目はカリキュラム改正により新設された。次年度は実際の保健師活動を視野に入れ、ハイリスク母子事例についての相談・訪問の展開演習を含めていきたい。

##### 4) 地域成人・高齢者保健論 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、佐藤潤

(2) 教育内容

地域で生活する成人、高齢者の個人・家族・集団への支援について、施策の変遷を通してその必要性を学び、事例等を用いながら支援の実際について学ぶことを目的とした。地域包括支援センターの保健師をゲストに迎え講義を通して支援の方法や技術についてより具体的に学んだ。本科目はカリキュラム改正により新設された。次年度は今年度の実習における当該科目内容過不足を検証しながら講義内容の改善を図りたい。

5) 地域精神保健論 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、佐藤潤

(2) 教育内容

地域における精神障害のある人々への支援方法（相談面接、家庭訪問、ピア活動等）について援用できる理論を用い、演習を通して理解を深めることを目的とした。ペーパー事例は相談面接から初回訪問までをロールプレイを通して学んだ。また現行の施策の動向を踏まえながら地域定着および包括的マネジメントについて理解を深めた。本科目はカリキュラム改正により新設された。次年度は今年度同様演習を中心に科目の充実を図りたい。

6) 公衆衛生危機管理論 1年次前期

(1) 担当教員 駒田真由子、大越扶貴

(2) 教育内容

自然災害や新興・再興感染症対策に関する法制度や動向について理解し、保健師としての役割、支援方法を学んでもらうことを目的に講義を行った。災害時、新興感染症の流行時、虐待等をテーマとして、健康危機管理のシステムや対象者への支援方法を取り扱った。次年度も保健師を取り巻く状況の変化を考慮しつつ、学ぶ範囲を広げていきたい。

7) 健康教育方法論 1年次前期

(1) 担当教員 佐藤潤

(2) 教育内容

Health Behavior : Theory, Research, and Practice, 5th Edition の和訳版を用いて対象者の自己効力感を効果的かつ持続的に高めるための各種教育スキルを講義した。次年度は、実際の健康教育の事例を交えて、より現場的視点を涵養できるように工夫していきたい。

8) 産業保健学 1年次後期

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

産業の場で就労している対象の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる産業保健活動の基礎知識と技術を習得することを目的に講義を行った。労働基準法に労働安全衛生法に関しては重点的に行った。現、講義中心となっているため、次年度は演習も取り入れた授業展開を行っていきたい。

9) 学校保健学 1年次後期

(1) 担当教員 明石眞言

(2) 教育内容

就学している対象（児童・生徒・学生）の状況を理解し、健康増進のための活動や起こりうる健康障害を予見し対応できる学校保健活動の基礎知識と技術を習得することを目的に講義を行った。特に文部科学省、厚生労働省や内閣府から公表されるデータの閲覧を重視した。次年度は学生の理解度がより高まるように、学校保健の最新のデータ見方を視野に入れる。

10) 国際保健学 1年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

先進国・途上国など世界の公衆衛生システムから日本の公衆衛生システムを省察し、具体的な看護活動に取り組む能力を習得することを目的として講義を行った。国際保健政策についての理解を促し、国際機関・国際保健の担い手に関する講義を実施したうえで、実際の国際保健活動を発展途上国で行ってきた講師に講義してもらうことで臨場感のある学修を目指した。来年度以降も今年度の反省を踏まえて状況の変化に対応しつつ実施していく。

11) コミュニティアセスメント演習 1年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子、赤石春佳

(2) 教育内容

コミュニティアセスメント論で学んだ知識、技術を応用して地域診断を実践する。様々な手法で入手したデータを基に、地域住民の健康にかかわる問題・課題とその要因を分析し、地域の生活や健康課題を解決するための活動計画とその評価、施策化の視点を演習を通して学ぶことを目的に行った。実際に調べたことを公衆衛生看護学実習Ⅰに活かすため、次年度も課題の指導を丁寧に行い、発表形式を工夫して実施したい。

12) 自立支援教育特論演習Ⅰ 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、赤石春佳

(2) 教育内容

住民のヘルスリテラシーを高め、地域のソーシャル・キャピタルを高めるためのアプローチについて実践的に理解を深めることを目的とした。区内社会福祉協議会の協力を得、住民の支えあい活動の場への継続的参加を通して健康に対する意識などを把握し介入方法について検討・一部実践した。次年度は、社会福祉協議会との連携を継続するなかで他職種の理解を深めつつ、健康に関わる住民へのアプローチについて実践的理解を推進する。

13) 自立支援教育特論演習Ⅱ 2年次前期

(1) 担当教員 佐藤潤、駒田真由子

(2) 教育内容

ひがしが丘保健室便りの定期的な作成を通じて、保健事業のプランニング、コーディネーション、マネジメントの能力の一端を養うことを目的とした。感染対策に留意して対面コミュニケーションの機会が増え、学生同時で協力して健康教育媒体（保健室便り）の作成に取り組めることとなった。次年度も科目で設定した目標が達成できるように演習を計画的に行っていきたい。

14) 住まいづくり論 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、佐藤潤

(2) 教育内容

WHO や健康日本 21（第二次）において着目されている環境に焦点を当てた健康増進・疾病予防のための住環境の視点や方策を得ることを目的とした。スマートシティの見学や見取り図を用いた住環境のアセスメントを通して、健康と住まいについて、ミクロ・マクロ的観点について理解を深めた。次年度は健康と住まいとの関連について、より最新の知見を踏まえた講義としていきたい。

15) 疾病予防看護学特論・自立支援教育特論 1年次 通年

(1) 担当教員 明石真言（後期） 佐藤潤、駒田真由子（前期）

## (2) 教育内容

海外研究論文に触れることで、研究論文の構造、内容の理解を深めることを目的とし、研究論文の紹介と内容の議論を行う授業である。学生が自分の能力に合わせて和訳を行い、資料を作成、内容の理解に努めつつ論文紹介を行ってもらった。研究の構造やデザイン、分析など総合的に研究力を学ぶ機会となった。次年度以降も学生の能力に合わせて到達レベルを考慮しながら継続的に実施していく。

## 16) 医療保健疫学 1年時後期

(1) 担当教員 駒田真由子

### (2) 教育内容

集団における疾病や健康現象を評価するために必要な疫学の基礎を学び、公衆衛生看護の実践や公衆衛生看護研究において疫学の考え方、手法を活用する方法について理解してもらう目的で講義を行った。学生は研究のデザインやバイアス、交互作用の考え方といった疫学方法論を具体的事例とともに学ぶ機会となった。引き続き、学生が疫学的思考を身につけられるような授業展開をしていきたい。

## 17) 医療保健疫学演習 1年次後期

(1) 担当教員 駒田真由子

### (2) 教育内容

医療保健疫学で学んだ疫学の知識を応用し、研究デザインや交絡因子の調整方法について論文・専門の教科書の輪読を通して理解を深めた。公衆衛生看護研究の実践に応用できる能力を養う目的で行った。この時期、学生は統計や疫学などの講義を受けて研究デザイン、分析方法の理解が深まってきているため、次年度も学生の理解度や能力に合わせて、資料や発表の意見や質疑応答が活発に行えることを目指して行いたい。

## 18) 保健統計学演習 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、原口昌宏

### (2) 教育内容

臨床、疫学、看護の研究論文を選定し単変量解析、多変量解析について調べてプレゼンテーションを行うアクティブラーニング手法を用いて授業を展開した。単変量解析、回帰分析、因子分析、共分散構造分析、傾向スコア分析、マルチレベル分析などを用いた論文が選定され、質疑応答含めディスカッションを行った。今後は保健師活動に役立つよう公的データを利用し、統計ソフトや表計算ソフトによる分析についての実践演習を授業に採用していく必要がある。

## 19) 公衆衛生関連法規 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、金子あけみ

### (2) 教育内容

公衆衛生看護の核となる日本国憲法を始めとして、保健師として地域づくりを推進するために必要な法制度に関する知識を深めることを目的とした。学生が自ら選択した法制度について、一定の枠組みを設定したプレゼンテーションとディスカッションを通して確実に学習を深めることができた。次年度は批判的吟味ができるようにディスカッションの質を高めていきたい。

## 20) 行政論 1年次後期

(1) 担当教員 大越扶貴、駒田真由子、赤石春佳

### (2) 教育内容

行政保健師活動の基盤となる行政の仕組みについて多様な角度から学ぶことにより、将

来の公衆衛生看護に係る政策形成へ参与できる能力を養うことを目的とした。保健医療福祉分野に留まらず広く地方自治制度や財政制度について時事的テーマ（自治体の財政難の背景等）も含めつつ講義を行った。

次年度は本授業の理解度を図る試験の結果が思わしくなかったことを踏まえ、実習を通して知識の定着や理解が深まるよう工夫を図りたい。

#### 21) 公衆衛生看護学実習Ⅰ 1年次後期

(1) 担当教員 大越扶貴、赤石春佳

(2) 教育内容

実習地域の健康課題を把握し、参加事業と連動させるなど保健センター等で取り組まれている事業（施策化も含む）や実践活動との関連について考察することを目的とした。また、個人・家族・集団の支援を通して保健師として要請される技術を習得することを目指した。

COVID-19の感染拡大に伴い、実習期間や内容の制限もあり技術の習得については、困難を極めた。次年度は感染の影響を視野に入れ演習の充実を図っていく。

#### 22) 公衆衛生看護学実習Ⅱ 1年次後期

(1) 担当教員 明石眞言、赤石春佳

(2) 教育内容

職場における産業保健活動の実際と産業保健活動の仕組みや産業看護職の役割について実践的に学ぶ。労働者・家族の特性を理解し、健康課題の把握と援助の方法、必要な連携・協働・ネットワークづくり・職場巡視等について理解することを目的に実習を行った。次年度も限られた時間で産業保健の実際が学べるように工夫をしていきたい。

#### 23) 地域包括ケア実習 2年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、駒田真由子、赤石春佳

(2) 教育内容

地域包括支援センターでの実習を通して、地域包括支援センターの役割とそこで働く保健師の役割を学び、地域特性に応じた地域包括ケアシステム構築のために必要な視点を考察した。次年度は、大学院としての地域包括支援センターでの実習である点を踏まえて、地域ケア会議や困難事例のケアマネジメントのような発展的内容にも踏み込んで実習できるように工夫をしていきたい。

#### 24) 地域診療所実習 2年前期

(1) 担当教員 駒田真由子

(2) 教育内容

診療所での実習を通して、地域で療養生活をしている住民の現状を認識し、そこから地域医療で果たすべき保健師の役割を考察してもらうことを行った。次年度以降も、地域包括ケアシステムの中の診療所の役割や、保健師と診療所との看看連携について、イメージできるような実習をセッティングしていきたい。

#### 25) 地域母子保健学演習 1年次後期

(1) 担当教員 加藤知子、駒田真由子、ゲッケルト博子、赤石春香

(2) 教育内容

地域母子保健が抱える今日的課題についてグループワークを通して考え、地区診断により地域特性の理解、助産師・保健師として具体的な母子保健事業を考察することができた。妊産婦や乳幼児に対するアセスメントを通して、家庭訪問や保健指導、健康相談における支援の技術も身に付けることができた。

26) 保健統計学 1年次後期

(1) 担当教員 浦中桂一、原口昌宏

(2) 教育内容

研究論文の講読や分析の実施において必要な統計学の基本的な性質や考え方を理解し、統計ソフトを用いたデータ分析の統計手法を学ぶことを主な目標とした。わかりやすい授業を心がけ既存の演習データを用いて、単変量解析および回帰分析について統計ソフトの実践演習を行った。今後は、論文等を例示するなどより実践的な学修計画を図っていく必要がある。

27) 保健医療福祉システム特論 1年次後期

(1) 担当教員 金子あけみ、清水美智夫、非常勤講師（平野方紹）

(2) 教育内容

保健医療福祉分野における法制度及び背景にある政策決定プロセスを学習するため、社会保障システムを主軸に様々な統計データを用いて解説した。これらの知識を踏まえ、学生個々の関心のある保健医療福祉に関する法制度を取りあげ、課題解決に向けた政策提案のプレゼンテーションと地域で保健師が果たすべき役割について討議し学習を深めた。

28) 医療倫理特論 1年次前期

(1) 担当教員 大越扶貴、早川正祐

(2) 教育内容

各コースの看護職が、実践を行う中で引き起こされる倫理的意思決定の場面（事例）を取り上げ、臨床倫理の4分割法等理論を援用しながら検討・考察を行った。また、倫理的課題のある共通事例を用い、各コースをミックスしたグループで多職種および家族等も含め、本人にとって最善の方針について合意する方法を討議し発表・共有を行った。次年度は、グループで扱う共通事例の工夫を図りながら、各コースの専門的視点を活かした討議ができるようにしたい。

29) ラボラトリー・メソッド特論 1年次前期

(1) 担当教員 小宇田智子、大島久二、明石眞言、小野孝二

(2) 教育内容

ヒトの健康像を理解するうえで必要な医学・生物学の知識を得るための手法を指導した。臨床現場で使われている手法や最新の科学研究で使われている手法を用いて、個体・組織・遺伝子および分子レベルでの生命現象について理解できるような授業の工夫をした。来年度も同様の内容で行う予定である。

30) 地域母子保健学特論 1年次後期

(1) 担当教員 島田三恵子、福島富士子、大越扶貴、永森久美子、デッケルト博子

(2) 教育内容

地域母子保健の現状と課題、母子保健に関わる地域診断、地域母子保健の活動の実際や産後ケアセンターの活動について講義を行った。加えて、学生が考える日本社会における母子保健の今日的課題について、現状とこれを解決するために必要だと思われる方策、地域での助産師や保健師助産師が地域で果たすべき役割について、討論し学習を深めた。

31) 研究特論 1年次前期

(1) 担当教員 大島久二、小野孝二、田中留伊、竹内朋子、朝澤恭子、浦中桂一、小宇田智子、高橋聡明

(2) 教育内容

看護研究における初歩的な研究テーマの設定法、データ収集法、解析法、倫理上の配慮

などについて具体例を示しながら解説した。本来の研究はどういうものであるかを教授し、また、研究成果を学会あるいは学術誌に発表するためのプレゼンテーションおよび論文作成に関する基本的な手法について習得できた。

32) 高度実践公衆衛生看護学研究 1年～2年次通年

(1) 担当教員 明石眞言 駒田真由子

(2) 教育内容

院生が関心のある個別の研究課題について文献検討をし、研究目的を明確にした後で研究計画の大枠を立案、1年後期に中間発表を行う準備・実施の支援を行った。その後は研究目的に従って具体的な研究方法を検討し、倫理申請の準備を行っている。各授業・実習との両立が課題であったものの、順調に進行している。

33) 課題研究 1～2年次通年

(1) 担当教員 大島久二、田中留伊、島田三恵子、佐藤潤、その他全教員

(2) 教育内容

一人ひとりの院生が、個別の研究課題を設定し、関連情報の収集、研究計画の立案、研究実施、研究成果の発表に至る、研究全般にわたるプロセスを担当教員の助言・指導を受けながら実施した。論文の執筆と学会を模した形式の発表会においては抄録やスライドの準備を行い、成果を論文としてまとめる力、プレゼンテーション能力を習得できた。

学生	指導教員	研究課題
KG421001	駒田講師	HPV ワクチン接種に関する意思決定と社会とのつながり
KG421002	駒田講師	新型コロナワクチンに対する意識・接種行動への動機付けに関する研究-ヘルスビリーフモデルに基づく検討-
KG421003	明石教授	日本における地域診断の理論・モデルおよび知見の動向：-Scoping Review2016～2021-
KG421004	明石教授	特別区保健師の保健活動における困難の様相とそれを乗り越えるプロセス

**【看護科学コース】**

**1. 教育方針**

看護学の発展および看護の一層の質の向上のために、教育現場と実践現場との連携と協同を通して、課題解決に的確に対応できる人材の育成を目指す。特に、エビデンスを蓄積し、それらのエビデンスを看護実践にまで発展させることができる資質を涵養し、社会および時代のニーズに的確に対応できる課題提供、課題解決能力を備えた教育研究者としての人材を育成する。

**【博士課程】**

**1. 教育方針**

看護学のさらなる進化および看護の一層の質の向上に「貢献できる教育研究者」を養成することを目的とする。看護、看護学の発展のためには、EBN に基づいた研究活動、教育活動、実践活動が必要である。博士論文の制作を通して、教育研究者として、エビデンスを「つくり」「つたえ」「つかう」プロセスを理解し、それぞれのプロセスにおいて積極的に取り組み、看護界が抱える課題を的確に抽出し、解決していくことができる能力を醸成する。

## 2. 科目

### 1) 特別研究

学生	指導教員	研究課題
KD019002	大島研究科長	成人期ムコ多糖症重症型患者の在宅生活における母親の体験と親亡き後に向けた準備
KD019003	大島研究科長	在宅医療における診療看護師(NP)の活動に関する研究